

言語聴覚科 (1年次)

2023年度 シラバス目次

科目名	項
医学概論	3
解剖学	6
生理学	9
病理学	12
内科学	14
精神医学	16
耳鼻咽喉科学	18
臨床神経学 I	20
形成外科学	22
臨床歯科医学	24
呼吸発声発語系医学	27
聴覚系医学	29
神経系医学	31
臨床心理学	35
生涯発達心理学	38
学習・認知心理学	41
心理測定法	44
言語学	47
音声学	50
音響学	54

科目名	項
聴覚心理学	57
言語発達学	60
リハビリテーション概論	64
医療福祉教育・関係法規	66
言語聴覚障害概論 I (小児)	68
言語聴覚障害概論 II (成人)	70
言語聴覚障害診断学 I (小児)	73
失語症 I (基礎理論・訓練理論)	76
失語症 II (検査)	79
高次脳機能障害 I (基礎理論・検査)	82
言語発達障害 I (概論・MR・SLI・S-S法)	85
言語発達障害 II (各論・評価・実習)	90
言語発達障害 III (PDD・LD)	96
言語発達障害 IV (CP・重心)	99
音声障害	102
構音障害 I (運動障害性基礎理論)	105
構音障害 II (運動障害性総合・演習)	108
構音障害 III (機能性)	111
嚥下障害 I (基礎理論)	113
吃音	115



学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	医学概論	
担当者	大石 久史	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト第 3 版 大森孝一ほか(編) 医歯薬出版株式会社	参考書 学生のための医学概論第 3 版 千代 豪昭(著) 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床に携わる医師が、非常勤講師として、「医の倫理」や「医療安全」等の医療人として身につけておくべき基本的内容を指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>我が国における医療の現状や今後の見通しを理解し、将来、医療人として社会貢献を行うために必要な自覚と決意を身に付ける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「健康・疾病・障害と社会環境」 健康や疾病、障害に対する様々な価値を身につけ、社会環境との関わりを理解する。	「健康に関わる諸因子」 (1) 健康の定義を説明することができる。 (2) ICF について説明することができる。 (3) QOL について説明することができる。 (4) インクルージョン、ノーマライゼーションについて説明することができる。	大石 久史
2	前期	「医の倫理」 歴史、思想的変遷を理解し、現代における「医の倫理」の中心的課題を考察する。	「医の倫理に関する基本的事項」 (1) 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」までの変遷を説明することができる。 (2) パターナリズム、インフォームド・コンセントについて説明することができる。 (3) 医療人として必要な守秘義務を理解し、実践することができる。	大石 久史
3	前期	「医療行為」 現在、医療の主流となっているチーム医療や他職種連携の意義を	「医療行為に関する基本的事項」 (1) 診療補助行為について説明することができる。	大石 久史

		修得し、医療安全、臨床研究、EBM に対する基本的考え方を理解する。	(2) チーム医療について、その背景と言語聴覚士の位置づけを説明することができる。 (3) 我が国が置かれている地域医療の現状を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (4) 医療安全におけるリスクの評価とその予防法を説明することができる。 (5) 臨床研究、EBM について、その概要を説明することができる。	
4	前期	「人口・保険統計および疫学」 人口や保健に関わる最新の統計を使用して、我が国の現状を理解する。また、既存の資料を元に、各種データの処理や解析方法について、その基礎を習得する。	「各種統計、疫学の基本的事項」 (1) 人口に関わる様々な統計を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (2) 疾病や障害に関わる様々な統計を理解し、今後の見通しを説明することができる。 (3) 疫学の基本的な考え方を理解し、適切な疫学指標、手法、データ解析等を選択することができる。	大石 久史
5	前期	「健康管理、予防医学」 健康管理、予防医学の重要性を理解し、生活習慣と疾患の関連について認識を深める。	「健康管理、予防医学の基本的事項」 (1) 我が国における健康管理体制の現状と動向について説明することができる。 (2) 健康診断・診査の具体的内容について説明することができる。 (3) 生活習慣と疾患の関連について説明することができる。	大石 久史
6	前期	「母子保健、成人・老人保健、精神保険」 人々の健康や生活に関わる日本の保健行政の成り立ちと仕組みの概要を理解する。	「各種保健制度の基本的事項」 (1) 各種保健の概念や意義、基本的内容、関係法規について説明することができる。 (2) 各種保健の現状と動向について説明することができる。 (2) 各種保健上の問題点について意見を述べるすることができる。	大石 久史
7	前期	「感染症対策および環境保健」 感染症をめぐる一般的な状況を理解する一方、特に院内における感染症対策について理解を深める。また、健康の維持には、個人や集団を取り巻くさまざまな環境が重要な役割を果たすことを	「感染症対策および環境保健の基本的事項」 (1) 感染症予防、特に標準予防策について、その意義と具体的方法を説明することができる。 (2) 院内感染、特に日和見感染について説明することができる。	大石 久史

		習得する。	(3) 環境の健康に与える影響について説明することができる。 (4) 化学的、生物学的な環境要因による健康被害について具体例をあげることができる。 (5) 医薬品などによる健康被害について具体例をあげることができる。	
8	前期	「学科試験、まとめ」	「学科試験、まとめ」	大石 久史
成績評価方法	学科試験 100%で評価する。60%は国家試験に準じた選択式、択一式ほか、40%は記述式で、必要な語が含まれない場合に減点される。			
準備学習など	特になし			
留意事項	特になし			

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	解剖学	
担当者	白木 豊	
単位数（時間数）	2 単位（50 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂	参考書

授業概要と目的
<p>&lt; 授業概要 &gt;</p> <p>言語聴覚士として必要な人体の肉眼的、組織学的構造の基本を理解する。</p> <p>言語聴覚士にとって、特に必要となる頭頸部の解剖は詳述するが、全身(運動器系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌器系、生殖器系、神経系、感覚器系など)についても、できる限り説明したいと考えている。</p> <p>&lt; 目的 &gt;</p> <p>身体の構造を把握することで、臨床医学を理解するための基礎をつくる。</p> <p>歯科医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1、2	前期	「解剖学総論」 系統解剖学総論、組織学概論、体表解剖学および方向用語について理解する	「解剖学の基礎知識」 ・身体を形成する細胞の構成、組織について概要を述べることができる ・体表からみた身体の区分、方向用語について説明できる	白木 豊
3、4	前期	「骨格系 1」 骨格系総論について理解する	「骨の組織、形態について」 ・骨組織について説明できる ・軟骨の種類について説明できる ・関節の種類と機能について説明できる	白木 豊
5、6	前期	「骨格系 2」 頭蓋骨について理解する	「頭蓋骨について」 ・頭蓋骨の種類、個数について概要を述べる ことができる ・脳頭蓋と顔面頭蓋の差異を説明できる ・前、中、後頭蓋窩の孔を説明できる	白木 豊
7、8	前期	「骨格系 3」 脊柱、胸郭について理解する	「脊柱、胸郭について」 ・椎骨の種類、個数について説明できる ・胸郭の構成について説明できる	白木 豊

9、10	前期	「骨格系4」 上肢帯、上肢の骨、下肢帯、下肢の骨について理解する	「上、下肢の骨について」 ・上肢帯について説明できる ・上肢の骨の構成と運動を説明できる ・下肢帯について説明できる ・下肢の骨の構成と運動を説明できる	白木 豊
11、12	前期	「骨格筋1」 筋系総論、頭頸部の筋、胸腹部の筋について理解する	「骨格筋について」 ・筋の構造について説明できる ・頭頸部の筋について説明できる ・胸腹部の筋について概説ができる	白木 豊
13、14	前期	「骨格筋2」 上肢の筋、下肢の筋について理解する	「上、下肢の筋群について」 ・上肢の筋の構造、機能を概説できる ・下肢の筋の構造、機能を概説できる	白木 豊
15、16	前期	「循環器系」 心臓の構造、脈管の構造について理解する	「循環器系について」 ・心臓の外部構造、内部構造について説明できる ・脈管構造を動脈系、静脈系に分けて概説できる	白木 豊
17、18	前期	「消化器系」 消化管の構造、消化付属器-唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓の構造、腹膜の構造について理解する	「消化器系について」 ・消化管の構造について概説できる ・消化腺について消化管との関連で説明できる ・腹膜について概説できる	白木 豊
19、20	前期	「呼吸器、泌尿・生殖器系」 ・気道の構造を上気道、下気道について理解する ・肺について、左右差、肺区域について理解する	「呼吸器、泌尿器について」 ・気道を概説できる ・喉頭の構造(軟骨、喉頭筋)を詳述できる ・肺の外形、構造が概説できる ・腎の構造の概説ができる ・男性器、女性器の概説ができる	白木 豊
21、22	前期	「神経系」 神経系の解剖学的分類、中枢神経系の構造、末梢神経系について理解する	「神経系について」 ・中枢神経系の概説ができる ・末梢神経系を脊髄神経、脳神経にわけ説明できる。特に脳神経は詳述できる。	白木 豊
23、24	前期	「感覚器系」 視覚器、平衡聴覚器、皮膚について理解する	「感覚器系について」 ・眼の構造を概説できる ・平衡聴覚器について概説できる。特に内耳の構造については、詳述できる	白木 豊

25	前期	「試験」	「筆記試験」	白木 豊
成績評価方法		試験による。筆記試験で 60%以上の得点を合格とする。		
準備学習など		プレゼンテーションの資料を配布する。また、適宜自己学習のためのプリントを配布する。		
留意事項				



学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	生理学	
担当者	清水 暁	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 やさしい生理学 彼末一之、能勢博 南江 堂	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>ヒトの身体は種々の器官系から成り立っており、これらが調和して機能することにより生命が維持されている。各種器官系の機能とその調節について概説し、生命のしくみについての理解を深める。</p> <p>授業目的</p> <p>器官系の機能と調節を学び、生命維持の仕組みを理解する</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「生理学の概説」 生理学の生物学的背景と生理学の概要を知る	「生理学の基礎」 生理学の基礎となる細胞と組織について説明できる	清水 暁
2	前期	「血液と体液」 体に含まれる水分の働きを理解する	「血液と体液の組成」 体液、血液のタンパク質、細胞成分の働きを説明できる	清水 暁
3	前期	「神経系の基礎」 神経細胞の性質を理解する	「神経細胞の働き」 神経細胞の興奮とその伝導機構の詳細を説明できる	清水 暁
4	前期	「末梢神経系」 体全体に張り巡らされた神経ネットワークを理解する	「体性神経系と自律神経系」 骨格筋に働く運動神経と内臓器官を調節する自律神経系を説明できる	清水 暁
5	前期	「中枢神経系 1」 脳の区分と機能の局在について理解する	脳の機能を、生きるための仕組み、たくましく生きる仕組み、よりよく生きる仕組みにわけて説明できる	清水 暁

6	前期	「中枢神経系 2」 前回に続き、脳の機能局在について理解する	前回に続き、よりよく生きる仕組みを説明できる	清水 暁
7	前期	「感覚 1」 感覚の総論と各論 感覚とは何かを理解する	「感覚の分類」 特殊感覚（視覚、臭覚、味覚、聴覚、前庭覚）、体性感覚、内臓感覚について説明できる	清水 暁
8	前期	「感覚 2」 前回に続き、感覚各論につき理解を深める	「感覚各論」 前回に続き、感覚それぞれについて説明できる	清水 暁
9	前期	「内分泌」 ホルモンとはどんなものを理解する	「ホルモンとその作用」 ホルモンそれぞれについて、その作用と効果について説明できる	清水 暁
10	前期	「循環」 循環とは何かを理解する	「心臓と血管」 血液を身体全体に供給するための心臓と血管の働きを説明できる	清水 暁
11	前期	「呼吸」 呼吸とは何かを理解する	「酸素と炭酸ガスの運搬」 肺で取り込まれた酸素の組織への運搬と組織で生じる炭酸ガスの体外への排泄の仕組みを説明できる	清水 暁
12	前期	「消化と吸収」 消化器での栄養素の消化と吸収について理解する	「栄養素の分解と身体への取り込み」 消化器（口腔、胃、小腸、大腸）での栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の分解（消化）と身体への取り込み（吸収）について説明できる	清水 暁
13	前期	「泌尿器」 腎臓と膀胱の働きを理解する	「腎臓と膀胱の働き」 身体で不要になったものをどのように排泄するかを腎臓と膀胱の働きとして説明できる	清水 暁
14	前期	「筋肉」 運動の仕組みを理解する	「運動の仕組み」 運動のもととなる筋肉の収縮機構を説明できる	清水 暁
15	前期	「科目試験」	「科目試験」	清水 暁

成績評価方法	学科試験にて 100 点満点で 50 点は○×方式と誤りの訂正、50 点は文章の穴埋めです。
準備学習など	配布する「生理学のまとめ」をよく理解してくる
留意事項	特になし

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	病理学
担当者	加藤 裕美
単位数（時間数）	1単位（20時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：病理学概論 亀山洋一郎 前田初彦 末永書店

授業概要と目的	
<p>授業概要</p> <p>病理学専門の医師が、非常勤講師として言語聴覚士に必要な病理学の基礎について講義する。</p> <p>授業目的</p> <p>機能が障害される原因と機序に関する理解を深め、言語聴覚士の視点から身体機能の低下や障害の原因、機能回復の促進を図るための知識を習得する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「病理学とは」 言語聴覚士が必要とする病理学 の概念を理解する。	「病理学とは」 言語聴覚士として必要である病理学の概念 を理解し、正常な細胞の仕組みについて述 べることが出来る。	加藤裕美
2	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学 的基礎を理解する。	「外因・内因」 病院論（主に外因・内因）について理解し、 述べる事が出来る。	加藤裕美
3	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学 的基礎を理解する。	「先天異常」 先天異常と奇形、伴性遺伝と染色体異常に よる遺伝について理解し述べる事が出来 る。	加藤裕美
4	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学 的基礎を理解する。	「代謝障害」 代謝障害（変性・萎縮・壊死）について理 解し述べる事が出来る。	加藤裕美

5	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学的基礎を理解する。	「増殖と修復」 増殖と修復（肥大・再生・創傷治癒）について理解し述べる事が出来る。	加藤裕美
6	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学的基礎を理解する。	「循環障害」 循環障害（血液の循環障害・リンパ液の循環障害・脱水症）について理解し述べる事が出来る。	加藤裕美
7	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学的基礎を理解する。	「炎症」 炎症（原因・形態的变化分類）について理解し述べる事が出来る。	加藤裕美
8	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学的基礎を理解する。	「免疫」 免疫・アレルギーについて理解し述べる事が出来る。	加藤裕美
9	前期	「病理学の基礎」 言語聴覚士が必要とする病理学的基礎を理解する。	「腫瘍」 腫瘍について理解し述べる事が出来る。	加藤裕美
10	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて病理学の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解く事が出来る。	加藤裕美
成績評価方法		試験による成績で評価する		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1 年次
科目名	内科学
担当者	侘美好昭
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Printed Text を提供する

<p>授業概要と目的</p> <p>言語療法士として医療の一端を担うに必要な基本的な医学知識、特に身体の機能の解剖学的および生理学的基礎知識を得ることを履修目的とする。医学的知識の少ない者にとってこの履修目的はかなり難解な目標であるので、臨床医学、特に内科学で一般に行われている生化学検査の理論的背景を説明することにより、疾病という身体的異常の実態とその治療へのアプローチを理解し co-medical stuff としての活動に役立てたい。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「内科診断学総論」 疾病はどのような障害により発生するか、大略を理解する。	「臨床検査の種類とその検査が持つ診断学的特徴」 この検査はどのような疾患の診断に適しているか、大略を説明できる。	侘美好昭
2	通年	「循環器疾患とショック」 循環器の生命現象における役割とそこに発生する異常の本態を説明できる。	「血液循環の異常の種類とその本質」 循環系の異常を知るためにはどのような検査が必要か、説明できる。	侘美好昭
3	通年			
4	通年	「呼吸器疾患と酸塩基平衡」 呼吸器の構造的な特徴と発生する機能との関係、および血液の酸塩基平衡の異常を理解する。	「呼吸器疾患、特に COPD と ARDS」 この二つの代表的呼吸器疾患は呼吸機能検査にどのような変化を起こすか、説明できる。	侘美好昭
5	通年			
6	通年	「意識障害」 意識保持のための脳幹と大脳皮質の役割を理解し、一次性、二次性脳病変の実態を理解する。脳死と植物状態およ	「頭蓋内圧亢進症状」 脳循環の解剖を理解し、頭蓋内圧亢進の原因と治療法を述べることができる。	侘美好昭
7	通年			

		び記憶の保持に必要な脳の責任領野を理解する		
8	通年	「代謝の調節、内分泌、自律神経」	「内分泌疾患と糖尿病」 各種ホルモンの作用を理解し、インスリンと糖代謝：糖尿病の合併症の発生機序を述べることができる。	侘美好昭
9		生体の Homeostasis の維持機構を理解し、自律神経とホルモンの役割を述べることができる。		
10	通年	「腎機能と水分代謝」 腎機能の評価方法と水分代謝に関与するホルモンの機能を説明できる。	「腎機能検査と水分出納」 各種腎機能障害と水分平衡の異常の判定法を具体的に述べることができる。熱中症の重症度の判定ができる。	侘美好昭
11	通年	「肝機能障害」 主要な肝臓の機能を説明できる。	「肝機能の評価法」 肝機能を評価する方法を具体的に述べることができる。	侘美好昭
12	通年	「血液疾患の骨髄移植」 造血機能と血液疾患を総括的に説明できる。	「血液型と輸血」 輸血の禁忌および異形輸血の合併症や骨髄移植の合併症を述べることができる。	侘美好昭
13	通年	「移植と免疫」 免疫機構の詳細を説明できる。	「細胞免疫と免疫蛋白質」 それぞれの機能とそれによる障害を説明できる。	侘美好昭
14	通年	「既出問題の見直し」	「同左による演習」	侘美好昭
15	通年	「講義内容の総括」	「試験」	侘美好昭
成績評価方法		筆記試験。		
準備学習など		特定の参考書はない。講義内容の筆記を怠らないこと。		

学科・年次	言語聴覚科・1年次
科目名	精神医学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	1単位（16時間）
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	講義プリント：現代臨床精神医学12版（金原出版）、精神医学（理工図書） はじめての精神医学2版（中山書店）、（南江堂）参照

授業概要と目的
精神科疾患の基礎を理解し、その知識を身につける。 なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「精神医学総論」 精神医学の歴史を理解する 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について理解する	「精神医学の歴史」 精神医学の歴史を述べるができる 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について述べるができる。	益田 健史
2	後期	「心因性精神障害」 神経症・ストレス関連疾患について理解する。	「神経症性障害、ストレス関連疾患」 不安症群、PTSD、解離性障害についてそれぞれの特徴を述べるができる	益田 健史
3	後期	「心因性精神障害」 心身症、摂食障害について理解する。	「心身症、摂食障害」 身体症状症、病気不安症、摂食障害についてそれぞれの特徴を述べるができる	益田 健史
4	後期	「内因性精神障害」 統合失調症を理解する	「統合失調症」 統合失調症の原因（ドーパミン仮説等）・疫学・症状（陽性症状、陰性症状）・治療法を述べるができる。	益田 健史
5	後期	「内因性精神障害」 気分障害について理解する。	「気分障害」 双極性障害及び単極型うつ病の病態・違いを述べるができる。	益田 健史



6	後期	「外因性精神障害」 器質性精神障害と物質依存について理解する。	「器質性精神障害」「物質依存」 器質性疾患による認知症を理解する。 物質依存の3要素（精神・身体・耐性） 及びアルコール依存症について述べる ことが出来る。	益田 健史
7	後期	「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害の分類、特徴 を理解する。 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理する	「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害の分類、特徴を述べる ことが出来る ここまでの知識を大まかに説明できる	益田 健史
8	後期	「試験と解説」	「試験と解説」 科目試験に合格することが出来る。 誤りを正すことが出来る。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	耳鼻咽喉科学
担当者	柴田 康子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として耳鼻咽喉科一般を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科の概略を理解する。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「耳鼻咽喉科 概要」 耳鼻咽喉科に概要を理解する。	「耳鼻咽喉科 概要」 耳鼻咽喉科でかかわる内容、診療内容について大まかな説明ができる。	柴田康子
2	前期	「耳の解剖」 外耳・中耳の解剖について理解する。	「耳の解剖」 外耳・中耳について構造を説明できる。	柴田康子
3	前期	「耳の解剖2」 内耳、特に平衡器について理解する。	「耳の解剖2」 平衡器について説明できる。	柴田康子
4	前期	「平衡機能検査」 平衡機能検査について理解する。	「平衡機能検査」 平衡機能検査について説明できる。	柴田康子
5	前期	「疾患1」 耳の疾患特に眩暈につき理解する。	「疾患1」 眩暈について説明できる	柴田康子
6	前期	「顔面神経」 解剖、疾患について理解する。	「顔面神経」 顔面神経に関する検査、疾患について説明できる。	柴田康子

7	前期	「鼻腔・副鼻腔の解剖」 鼻腔・副鼻腔の解剖、機能について理解する。	「鼻腔・副鼻腔の解剖」 鼻腔・副鼻腔の構造・機能について説明できる。	柴田康子
8	前期	「鼻腔・副鼻腔の検査」 鼻腔・副鼻腔の検査を理解する。	「鼻腔・副鼻腔の検査」 症状一般とそれに伴う検査を説明できる。	柴田康子
9	前期	「鼻疾患」 外鼻・鼻腔疾患について理解する。	「鼻疾患」 外鼻・鼻腔疾患について説明できる。	柴田康子
10	前期	「副鼻腔疾患」 副鼻腔疾患について理解する。	「副鼻腔疾患」 副鼻腔疾患について説明できる。	柴田康子
11	前期	「口腔・咽頭について」 口腔・咽頭の解剖、機能について理解する。	「口腔・咽頭について」 口腔・咽頭の構造、機能について説明できる。	柴田康子
12	前期	「口腔・唾液腺疾患」 口腔・唾液腺疾患について理解する。	「口腔・唾液腺疾患」 口腔・唾液腺疾患について説明できる。	柴田康子
13	前期	「咽頭疾患」 咽頭疾患について理解する。	「咽頭疾患」 咽頭疾患について説明できる。	柴田康子
14	前期	「顔面・頸部疾患」 顔面・頸部疾患について理解する。	「顔面・頸部疾患」 顔面・頸部の疾患について説明できる。	柴田康子
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて耳鼻咽喉科領域の概要を理解する	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で40点、記述式で60点の合計100点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	臨床神経学 I	
担当者	平野 裕滋	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 神経内科学テキスト 江藤文夫 飯島節 南江堂	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>中枢神経系障害のリハビリテーション経験のある教員がその経験を活かし、中枢神経系障害を理解する基礎を指導する</p> <p>授業目的：神経生理学を理解し、それに基づいた中枢神経障害を理解出来るようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経生理基礎」 神経伝達の仕組みを理解する	「神経ネットワークの基礎」 神経伝達物質とその伝達を簡潔に説明出来る	平野 裕滋
2	前期	「嚥下」 嚥下の神経機構を理解する	「嚥下メカニズムについて」 嚥下メカニズムを述べられる。	平野 裕滋
3	前期	「脳神経 I～VII」 脳神経 I～VIIを理解し評価出来るようになる。	「脳神経 I～VIIの機能について」 脳神経の位置と機能について簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
4	前期	「脳神経VIII～XII」 脳神経VIII～XIIを理解し評価出来るようになる。	「脳神経VIII～XII」の機能について 脳神経の位置と機能について簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
5	前期	「自律神経系」 自律神経の仕組みを理解する。	「自律神経系の機能について」 自律神経系のネットワークと機能を簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
6	前期	「脳機能」 脳の局在機能を理解する。	「脳局在について」 脳局在の機能と障害を結びつけることが出来る。	平野 裕滋

7	前期	「小脳、大脳基底核」 小脳、大脳基底核の位置と機能を理解する。	「小脳、大脳基底核について」 運動制御系としての連携の理解と機能を簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
8	前期	「脊髄機能」 脊髄の生理、解剖を理解する。	「脊髄について」 中枢神経伝導路としての働きを簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
9	前期	「意識、高次脳機能」 意識の意味、高次脳機能を理解する。	「意識、高次脳機能について」 意識の役割と高次の脳機能について簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
10	前期	「視床機能」 大脳深部にある視床の働きを理解する。	「視床について」 視床の機能障害と臨床症状の関係を列挙出来る。	平野 裕滋
11	前期	「各種神経機能検査・診断」 神経機能検査の意義と手法を理解する。	「神経機能検査、診断について」 神経機能検査をすることにより臨床症状と障害部位の推定が出来るようになる。	平野 裕滋
12	前期	「各疾患概論」 神経疾患の種類を理解する。	「神経疾患各論について」 各種神経疾患の概論を理解し、今までの基礎的な講義内容とリンクさせる事が出来る。	平野 裕滋
13	前期	「脳脊髄循環」 脳脊髄の働きを理解する。	「脳脊髄循環について」 脳脊髄の循環障害やその検査により診断が出来る疾患を簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
14	前期	「脳画像」 脳画像の読み方を理解する。	「脳画像について」 臨床で使用される脳画像と脳解剖を結びつける事が出来る。	平野 裕滋
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて神経学の概要を理解する。	「科目試験」 科目試験の問題を解くことができる。	平野 裕滋
成績評価方法		学科試験は 100 点満点で 60 点以上が合格です。国家試験に準じた解答方式で施行・採点します。		
準備学習など		内容は臨床に役立ち、かつ国家試験に準じたレベルを含みますので、国家試験過去問などを参考にしてください		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	形成外科学	
担当者	奥本隆行、井上 義一、犬飼 麻妃、森川 脩介	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト 医歯薬出版	参考書

授業概要と目的
<p>形成外科診療の実際を理解する。口唇口蓋裂をはじめとする口腔咽頭領域の疾患と病態を理解する。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う疾患や治療の理解する	「形成外科概論」 形成外科の診療内容を説明できる	井上 義一
2	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う顔面外傷と美容外科を理解する	「顔面外傷と美容外科」 顔面外傷の診断・治療、美容外科の診療概要を説明できる	井上 義一
3	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う頭蓋顎顔面外科を理解する	「頭蓋顎顔面外科」 頭蓋顎顔面外科の対象疾患と治療概要を説明できる	犬飼 麻妃
4	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う悪性腫瘍切除後の再建を理解する	「悪性腫瘍切除後の再建」 悪性腫瘍切除後の組織欠損の問題点とその再建方法を説明できる	犬飼 麻妃
5	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う先天異常と遺伝形式を理解する	「多因子遺伝と口唇口蓋裂」 多因子遺伝の仕組みと口唇口蓋裂の病態・治療に関して説明できる	奥本 隆行
6	前期	「形成外科について」 形成外科で扱う先天異常と遺伝形式を理解する	「先天性外表異常」 主な先天性外表異常とその治療に関して説明できる	奥本 隆行

7	前期	「形成外科について」 創傷治癒の過程を理解する 皮膚移植の概略を理解する	「創傷治癒と皮膚移植」 創傷治癒の過程と皮膚移植の方法を説明できる	森川 脩介
8	前期	「学科試験とまとめ」	「学科試験とまとめ」	森川 脩介
成績評価方法		学科試験は 100 点満点で○×方式、5 者択 1（あるいは 2）方式、記述式で行います。記述式は必要な語が含まれない場合は減点する方式で採点します。		
準備学習など		言語聴覚士にとって口腔咽頭機能にかかわる知識は重要です。形成外科では先天異常やの口腔咽頭領域の悪性腫瘍切除後再建など鼻咽腔閉鎖機能にかかわる治療を行っています。実際の臨床を十分理解できるように積極的に取り組んでください。質問も随時受けていきます。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次	
科目名	臨床歯科医学	
担当者	原 康司	
単位数（時間数）	1単位（30時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第2版（夏目長門 医学書院）	参考書 言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説<2020年版>（大揚社）

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>歯・歯周組織をはじめとする口腔の構造・機能・疾患について理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ。歯科医師が担当する。</p> <p>授業目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経の発生、構造、機能について知り、説明できるようになる。</li> <li>2 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経に発生する疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。</li> <li>3 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。</li> <li>4 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能障害に対する評価、治療法について知り、説明できるようになる。</li> </ol> <p>なお、歯科医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「口腔・顎・顔面について」 口腔・顎・顔面について理解する。	「口腔・顎・顔面の発生、構造、機能（摂食、咀嚼、嚥下、構音）」 何も見ずに口腔・顎・顔面について簡単に説明できる。	原 康司
2	前期	「歯・歯周組織について」 歯・歯周組織について理解する。	「歯・歯周組織の発生、構造、機能（咀嚼、構音）、疾患、治療（う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正、歯の欠損）」 何も見ずに歯・歯周組織について簡単に説明できる。	原 康司
3	前期	「顎関節について」 顎関節について理解する。	「顎関節の発生、構造、機能（摂食、咀嚼、嚥下、構音）」	原 康司



			何も見ずに顎関節について簡単に説明できる。	
4	前期	「唾液腺について」 唾液腺について理解する。	「唾液腺の発生、構造、機能（咀嚼、摂食、嚥下）」 何も見ずに唾液腺について簡単に説明できる。	原 康司
5	前期	「口腔ケアについて」 口腔ケアについて理解する。	「口腔ケアの予防、疾患、治療」 何も見ずに口腔ケアについて簡単に説明できる。	原 康司
6	前期	「歯科医学的処置について」 歯科医学的処置について理解する。	「歯科医学的処置の補綴、保存、歯科矯正などの処置」 何も見ずに歯科医学的処置について簡単に説明できる。	原 康司
7	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について1」 構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について理解する。	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療の口唇裂、顎裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂および類似疾患、舌、口底（口腔底）、頬、口唇の異常、咬合異常、顎変形症、顎の先天性異常・発育異常、顎関節疾患、唾液腺疾患、末梢神経異常、口腔乾燥症、口腔内腫瘍、口腔粘膜疾患1」 何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について簡単に説明できる。	原 康司
8	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について2」 構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について理解する。	「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療の口唇裂、顎裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂および類似疾患、舌、口底（口腔底）、頬、口唇の異常、咬合異常、顎変形症、顎の先天性異常・発育異常、顎関節疾患、唾液腺疾患、末梢神経異常、口腔乾燥症、口腔内腫瘍、口腔粘膜疾患2」 何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患と治療について簡単に説明できる。	原 康司
9	前期	「構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について」 構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について理解する。	「構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法の手術的療法、補綴的補助装置による機能回復、訓練」 何も見ずに構音、摂食、咀嚼の障害に対する歯科医学的治療法について簡単に説明できる。	原 康司

10	前期	「歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の炎症、感染症と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
11	前期	「歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の腫瘍・嚢胞と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
12	前期	「歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について」 歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について理解する。	「歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損の機能障害、治療、再建と機能回復」 何も見ずに歯、口腔、顎、顔面の外傷と治療後の欠損について簡単に説明できる。	原 康司
13	前期	「中枢性疾患による口腔機能障害について」 中枢性疾患による口腔機能障害について理解する。	「中枢性疾患による口腔機能障害の障害、治療、評価」 何も見ずに中枢性疾患による口腔機能障害について簡単に説明できる。	原 康司
14	前期	「加齢による口腔機能障害について」 加齢による口腔機能障害について理解する。	「加齢による口腔機能障害の障害、治療、評価」 何も見ずに加齢による口腔機能障害について簡単に説明できる。	原 康司
15	前期	「科目試験」を通して各回の講義内容を理解する。	「科目試験」の問題を解くことができる。	原 康司
成績評価方法		定期試験の得点（80%）、受講態度（小テスト、質問に対する回答、発言回数など）（20%）から、総合的に評価する。		
準備学習など		【予習】 事前配付資料と教科書等にて内容を確認・理解し講義に臨めるようにしてください。 【復習】 配付資料と教科書等にて内容を確認しさらに理解を深めてください。		
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	呼吸発声発語系医学
担当者	柴田 康子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として呼吸・発声・発語系分野を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>呼吸・発声・発語系の解剖、機能、検査、疾患について理解する。</p> <p>医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「呼吸発声発語系医学について」 呼吸・発声とは何か概略を理解する。	「呼吸発声発語系医学について」 呼吸・発声について概略を説明できる。	柴田康子
2	後期	「解剖と機能、疾患」 鼻腔・口腔の解剖と機能を理解する。鼻腔・口腔・舌の疾患について理解する。	「解剖と機能、疾患」 構音器官としての構造と機能を説明できる。構音にかかわる疾患について説明できる。	柴田康子
3	後期	「解剖と機能」 喉頭の解剖と機能を理解する。	「解剖と機能」 喉頭の構造と機能を説明できる。	柴田康子
4	後期	「検査1」 喉頭の検査について理解する。	「検査1」 喉頭の基本的検査について説明できる。	柴田康子
5	後期	「解剖と機能」 呼吸器の解剖と機能を理解する。	「解剖と機能」 呼吸器の構造と機能について説明できる。	柴田康子
6	後期	「検査2」 呼吸機能検査について理解する。	「検査2」 呼吸機能検査について説明できる。	柴田康子

7	後期	「発声の仕組みと検査」 発声の仕組みとそれに関する検査について理解する	「発声の仕組みと検査」 発声の仕組みとそれに関する検査について説明する	柴田康子
8	後期	「音声学」 音声生理と音声障害について理解する。	「音声学」 音声生理と音声障害について説明できる。	柴田康子
9	後期	「疾患 2」 喉頭疾患（先天性・外傷・炎症）について理解する。	「喉頭疾患 1」 喉頭疾患（先天性・外傷・炎症）について説明できる。	柴田康子
10	後期	「疾患 3」 喉頭疾患（腫瘍病変）について理解する。	「喉頭疾患 2」 喉頭の隆起病変（良性）について説明できる。	柴田康子
11	後期	「疾患 4」 喉頭疾患（悪性腫瘍）について理解する。	「喉頭疾患 3」 喉頭癌、代用音声について説明できる。	柴田康子
12	後期	「疾患 5」 喉頭疾患（運動・知覚障害）について理解する。	「喉頭疾患 4」 喉頭の運動・知覚障害について説明できる。	柴田康子
13	後期	「気道確保」 気道確保について理解する。	「気道確保」 気道確保の適応・方法について説明できる。	柴田康子
14	後期	「復習」 復習	「復習」 復習	柴田康子
15	後期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて呼吸発声発語系領域の概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で 40 点、記述式で 60 点の合計 100 点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	聴覚系医学
担当者	柴田 康子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 鳥山 稔/田内 光 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>耳鼻咽喉科専門医が非常勤講師として聴覚分野を担当する。</p> <p>授業目的</p> <p>聴覚系の解剖、機能、検査、疾患について理解する。</p> <p>医師として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚障害について」 聴覚障害の概要を理解する。	「聴覚障害1」 聴覚障害とは何か。複数の視点から説明できる。	柴田康子
2	通年	「聴覚障害について」 先天性難聴について理解する。	「聴覚障害2」 先天性難聴について説明できる。	柴田康子
3	通年	「聴力検査1」 自覚的検査について理解する。	「聴力検査1」 特に純音聴力検査について検査の意義を理解する。	柴田康子
4	通年	「聴力検査2」 乳幼児の聴力検査について理解する。	「聴力検査2」 乳幼児の自覚的検査の意義について説明できる。	柴田康子
5	通年	「聴力検査3」 他覚的検査について理解する。	「聴力検査3」 他覚的検査の意義について説明できる。	柴田康子
6	通年	「新生児聴覚スクリーニング」 新生児聴覚スクリーニングについて理解する。	「新生児聴覚スクリーニング」 新生児聴覚スクリーニング検査について説明できる。	柴田康子

7	通年	「聴力検査4」 耳鳴、耳管機能検査について理解する。	「聴力検査4」 耳鳴、耳管機能検査について説明できる。	柴田康子
8	通年	「外耳について」 外耳の解剖、機能、疾患について理解する	「外耳について」 外耳の構造、機能、疾患について説明できる。	柴田康子
9	通年	「中耳について1」 中耳の解剖、機能、疾患について理解する。	「中耳について1」 中耳の構造、機能、疾患について説明できる。	柴田康子
10	通年	「中耳について2」 中耳炎について理解する。	「中耳について2」 中耳炎について説明できる。	柴田康子
11	通年	「内耳について1」 内耳の解剖、機能について理解する。	「内耳について1」 内耳の構造、機能について説明できる。	柴田康子
12	通年	「内耳について2」 内耳疾患について理解する。	「内耳について2」 内耳疾患について説明できる。	柴田康子
13	通年	「後迷路について1」 後迷路の解剖、機能について理解する。	「後迷路について1」 後迷路・聴覚伝導路について説明できる。	柴田康子
14	通年	「後迷路・中枢について」 後迷路の疾患について理解する。	「後迷路・中枢について」 後迷路の疾患について説明できる。	柴田康子
15	通年	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて聴覚領域の概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験を解くことができる。	柴田康子
成績評価方法		科目試験にて、○×で40点、記述式で60点の合計100点満点にて行う。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	神経系医学	
担当者	大石 久史	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト第 3 版 大森孝一ほか（編） 医歯薬出版株式会社	参考書 病気が見える Vol.7 脳・神経第 3 版 Medic Media 人体の正常構造と機能 VIII 神経系(1)(2) 坂井建雄 ほか編 日本医事新報社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床に携わる医師が、非常勤講師として、神経系を構成する各部の機能、解剖生理を指導する。さらに主要な疾患について、病理学的な変化や病態生理を理解し、専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーション等の理解の一助とする。</p> <p>授業目的</p> <p>中枢神経系および末梢神経系の正常構造と機能を理解し、主要な神経系疾患の病態生理、症候、診断の基礎を理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「中枢神経系の構造 1：大脳、脳幹、小脳」 脳各部位の基本的な発生の過程と構造を理解する。	「大脳・脳幹・小脳の構造」 (1) 神経発生について説明することができる。 (2) 大脳の構造について説明することができる。 (2) 中脳、橋、延髄の構造について説明することができる。 (3) 小脳の構造について説明することができる。	大石 久史
2	前期	「中枢神経系の構造 2：脊髄、錐体路・錐体外路」 脊髄、錐体路・錐体外路の構造を理解する。	「脊髄の構造および錐体路・錐体外路」 (1) 脊髄の構造について説明することができる。 (2) 錐体路、錐体外路について説明することができる。	大石 久史

3	前期	「中枢神経系の構造3：脳血管系、髄膜・脳脊髄液」 脳血管系、髄膜の構造、脳脊髄液の循環について理解する。	「脳血管系および髄膜・脳脊髄液」 (1) 脳血管系の構造について説明することができる。 (2) 髄膜・脳脊髄液の基本的事項について説明することができる。 (2) 血液・脳関門の構造について説明することができる。	大石 久史
4	前期	「末梢神経系の構造1：脳神経」 脳神経の構造を理解する。	「脳神経の構造」 (1) 脳神経核の解剖学的位置を説明することができる。 (2) 脳神経の構造、役割、神経成分を説明することができる。	大石 久史
5	前期	「末梢神経系の構造2：脊髄神経、自律神経」 脊髄神経および自律神経の構造を理解する。	「脊髄神経および自律神経の構造」 (1) 脊髄神経の構造を説明することができる。 (2) 自律神経の二重神経支配、構造、役割等を説明することができる。	大石 久史
6	前期	「神経系細胞の働き1：神経伝導」 神経系を構成する各種の細胞と神経伝導のメカニズムを理解する。	「神経伝導」 (1) 神経系の各種細胞について、局在と働きを説明することができる。 (2) イオンチャネル構造と機能から、神経伝導、神経伝達を説明することができる。 (3) 活動電位について説明することができる。	大石 久史
7	前期	「神経系細胞の働き2：神経伝達」 神経伝達のメカニズムを理解する。	「神経伝達」 (1) シナプスの構造と機能について説明することができる。 (2) 主要な神経伝達物質について説明することができる。 (3) 神経伝導と神経伝達の違いについて説明することができる。	大石 久史
8	前期	「中枢神経系の機能1：大脳皮質、伝導路」 大脳皮質の機能局在と主要な神経伝導路を理解する。	「大脳皮質の機能局在、伝導路」 (1) 大脳皮質の機能局在について説明することができる。 (2) 主要な上向性、下向性伝導路について説明することができる。	大石 久史



9	前期	「中枢神経系の機能2：大脳白質、脳幹」 大脳白質と脳幹の機能を理解する。	「大脳白質と脳幹の機能」 (1) 大脳白質の機能および線維の違いについて説明することができる。 (2) 脳幹にある脳神経核と皮質核路について説明することができる。	大石 久史
10	前期	「中枢神経系の機能3：小脳、脊髄」 小脳と脊髄の機能を理解する。	「小脳と脊髄の機能」 (1) 小脳核の機能について説明することができる。 (2) 脊髄の機能について説明することができる。 (3) 脊髄反射のメカニズムについて説明することができる。	大石 久史
11	前期	「末梢神経系の機能」 末梢における運動と感覚、自律神経機能の制御を理解する。	「運動神経、感覚神経、自律神経」 (1) 運動神経と感覚神経の違いについて説明することができる。 (2) 神経筋接合部の構造について説明することができる。 (3) 種々の知覚受容体の構造について説明することができる。	大石 久史
12	前期	「中枢神経系の病態」 種々の中枢神経障害の病因病態を理解し、症状との関連を理解する。	「中枢神経系の主要な病気」 (1) 高次脳機能障害について説明することができる。 (2) 上位、下位運動ニューロン性障害の違いについて説明することができる。 (3) 種々の運動失調疾患について説明することができる。 (4) 基底核障害の多様性について説明することができる。 (5) 感覚障害について説明することができる。 (6) 脊髄の障害部位と症状について、その対応を説明することができる。	大石 久史
13	前期	「末梢神経系の病態」 種々のニューロパチーの病因病態を理解し、症状との関連を理解する。	「末梢神経系の主要な病気」 (1) 主要な末梢性運動障害について説明することができる。 (2) 主要な末梢性感覚障害について説明することができる。 (3) 自律神経障害について説明することができる。	大石 久史

14	前期	「神経生理・画像診断および神経系の総括」 従来の検査に加え、最近の画像診断技術の進歩について理解を深め、神経系の最近の知見に触れる。	「神経生理・画像診断および神経系の総括」 (1) 各種電気生理学的検査、形態画像検査、機能画像検査について説明することができる。 (2) 神経系疾患に対する最近の知見と治療法について説明することができる。	大石 久史
15	前期	「学科試験、まとめ」	「学科試験、まとめ」	大石 久史
成績評価方法		学科試験 100%で評価する。60%は国家試験に準じた選択式、択一式ほか、40%は記述式で、必要な語が含まれない場合に減点される。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	臨床心理学	
担当者	菅 吉基	
単位数（時間数）	2単位（40時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 プリント配布	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床心理士・公認心理師資格取得、カウンセリングの実務経験がある者が非常勤講師として、言語聴覚士になるために必要とされる臨床心理学の基礎理論と実際を教える。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床心理学の基礎理論と実際を学ぶことにより、心への理解を深めることで、自己・他者への気持ちの理解を促し、対人支援に活かせるようにする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「臨床心理学概論」 臨床心理学とは何かについて理解する。	「オリエンテーション、授業内容の説明」 臨床心理学的な考え方を説明できる。	菅 吉基
2	前期	「人格理論 (1)」 人格の類型論について理解する。	「類型論の考え方」 Kretschmer、Jung の類型論について説明できる。	菅 吉基
3	前期	「人格理論 (2)」 人格の特性論について理解する。	「特性論の考え方」 Guilford、Cattell、Eysenck、Goldberg の特性論について説明できる。	菅 吉基
4	前期	「発達各期における心理臨床的問題 (1)」 情緒及び行動の障害について理解する。	「情緒及び行動の障害と発達段階説」 情緒及び行動の障害への対応と Freud の発達段階説について説明できる。	菅 吉基
5	前期	「発達各期における心理臨床的問題 (2)」 摂食障害について理解する。	「摂食障害への対応」 摂食障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基

6	前期	「様々な精神障害 (1)」 心的防衛機制と気分の障害について理解する。	「防衛機種の種類とうつ病への対応」 防衛機種の種類を知ることと、うつ病の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
7	前期	「様々な精神障害 (2)」 意識の障害と統合失調症について理解する。	「解離性障害と統合失調症への対応」 解離性障害と統合失調症の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
8	前期	「様々な精神障害 (3)」 パーソナリティ障害について理解する。	「境界性パーソナリティ障害と自己愛性パーソナリティ障害への対応」 パーソナリティ障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
9	前期	「様々な精神障害 (4)」 強迫性障害、パニック障害、不安障害について理解する。	「強迫性障害、パニック障害、不安障害への対応」 強迫性障害、パニック障害、不安障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
10	前期	「様々な精神障害 (5)」 操作的診断基準について理解する。	「精神疾患の診断について」 DSM、ICD の定義と診断の基準について説明できる。	菅 吉基
11	前期	「臨床心理学的査定 (1)」 知能検査について理解する。	「知能検査について」 知能検査の定義と、ウェクスラー式知能検査、ビネー式知能検査について説明できる。	菅 吉基
12	前期	「臨床心理学的査定 (2)」 発達検査、質問紙法について理解する。	「発達検査、質問紙法について」 発達検査、質問紙法の定義と実施方法、種類について説明できる。	菅 吉基
13	前期	「臨床心理学的査定 (3)」 人格検査、投影法について理解する。	「人格検査、投影法について」 人格検査、投影法の定義と実施方法、種類について説明できる。	菅 吉基
14	前期	「臨床心理学的査定 (4)」 面接法、行動観察法について理解する	「面接法、行動観察法について」 面接法、行動観察法の定義と実施時の注意点について説明できる。	菅 吉基
15	前期	「心理療法 (1)」 精神分析、分析心理学について理解する。	「精神分析、分析心理学について」 精神分析、分析心理学の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
16	前期	「心理療法 (2)」 遊戯療法について理解する。	「遊戯療法について」 遊戯療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基

17	前期	「心理療法 (3)」 行動療法、認知療法、認知行動療法について理解する。	「行動療法、認知療法、認知行動療法について」行動療法、認知療法、認知行動療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
18	前期	「心理療法 (4)」 クライアント中心療法、家族療法について理解する。	「クライアント中心療法、家族療法について」クライアント中心療法、家族療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
19	前期	「心理療法 (5)」 集団療法について理解する。	「集団療法について」 集団療法の定義と治療方法について説明できる。	菅 吉基
20	前期	「科目試験」	「科目試験と解説、まとめ」	菅 吉基
成績評価方法		<p>科目試験にて 100 点満点で、90 点は 5 択の選択問題 10 点は自由記述問題です。 記述問題は自己内省の程度により採点させていただきます。</p> <p>A10 点 B7 点 C4 点 D1 点の 4 段階評価として、下記基準にて評価します。</p> <p>A テーマについて行動・思考・感情についての十分な記載がなされた場合。 B テーマについて行動・思考・感情のいずれか 2 つのみ、もしくは十分な記載がない場合。 C テーマについて行動・思考・感情のいずれか 1 つのみ、もしくは表面的な記載の場合。 D テーマについて記載されているが、文章量が乏しく、自己内省の程度を判断できない場合。</p>		
準備学習など		<p>言語聴覚士・対人援助職にとって、他者の心を理解することは、重要な技術になります。他者理解を深めるために、自己理解を深めてください。</p> <p>国家試験に向けて、過去問の対策も進めて頂ければ幸いです。</p> <p>疑問がありましたら、どんなことでもご質問ください。</p>		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	生涯発達心理学	
担当者	菅 吉基	
単位数（時間数）	2単位（40時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 プリント配布	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床心理士・公認心理師資格取得、カウンセリングの実務経験がある者が非常勤講師として、言語聴覚士になるために必要とされる生涯発達心理学の基礎理論と実際を教える。</p> <p>授業目的</p> <p>生涯発達心理学の基礎理論と実際を学ぶことにより、自己理解と他者理解を深めることで、患者の見立てや、対人支援に活かせるようにする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「発達心理学概論」 生涯発達心理学とは何かについて理解する。	「オリエンテーション、授業内容の説明」 発達心理学的な考え方を説明できる。	菅 吉基
2	前期	「発達の概念 (1)」 発達の規定要因について理解する。	「発達の規定要因についての学説」 Gebell,A. Lorenz,K. Portmann,A. の学説について説明できる。	菅 吉基
3	前期	「発達の概念 (2)」 発達研究法について理解する。	「縦断的研究法と横断的研究法」 それぞれの研究法の特徴を説明できる。	菅 吉基
4	前期	「発達の概念 (3)」 発達理論について理解する。	「発達段階説」 Erikson と Piaget の発達段階説について説明できる。	菅 吉基
5	前期	「新生児期・乳児期の発達 (1)」 知覚・認知の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の知覚・認知」 新生児期・乳児期の発達過程、視覚的断崖実験、選好注視法について説明できる。	菅 吉基

6	前期	「新生児期・乳児期の発達 (2)」 運動の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の運動の発達」 新生児期のみ見られる、特殊な反射活動について説明できる。	菅 吉基
7	前期	「新生児期・乳児期の発達 (3)」 愛着の発達について理解する。	「新生児期・乳児期の愛着」 Bowlby の愛着理論、Ainsworth のストレンジシチュエーション法について説明できる	菅 吉基
8	前期	「乳児期・児童期の発達 (1)」 遊びと認知機能の発達について理解する。	「乳児期・児童期の遊びと認知機能」 Parten の遊びに関する発達段階について説明できる。	菅 吉基
9	前期	「乳児期・児童期の発達 (2)」 自己・他者認知の発達と仲間関係について理解する。	「乳児期・児童期の自己・他者認知と仲間関係」心の理論、ギャングエイジについて説明できる。	菅 吉基
10	前期	「乳児期・児童期の発達 (3)」 保育・学校教育と発達について理解する。	「乳児期・児童期の保育・学校教育」 保育・学校教育の定義を理解し、集団生活での変化や発達について説明できる。	菅 吉基
11	前期	「青年期の発達 (1)」 親子関係・友人関係について理解する。	「青年期の親子関係・友人関係」 青年期での親子・友人の関係性の変化について説明できる。	菅 吉基
12	前期	「青年期の発達 (2)」 自我同一性について理解する。	「自我同一性の確立」 Erikson の自我同一性理論、Marcia の自我同一性地位について説明できる。	菅 吉基
13	前期	「青年期の発達 (3)」 知的機能の発達について理解する。	「青年期の知的機能」 青年期の知的機能の変化・拡大と、仮説演繹的思考について説明できる。	菅 吉基
14	前期	「成人期・老年期の発達 (1)」 職業生活・家族生活について理解する。	「成人期の職業・家族生活」 職業選択や、家庭環境が心理的にどのように影響するのかについて説明できる。	菅 吉基
15	前期	「成人期・老年期の発達 (2)」 エイジングとパーソナリティについて理解する。	「老年期の知的機能」 Cattell の結晶性知能・流動性知能の特性の違いについて説明できる。	菅 吉基

16	前期	「成人期・老年期の発達 (3)」 死への対応について理解する。	「死の受容の過程」 Kubler-Ross の死の受容、5 段階の過程を説明できる。	菅 吉基
17	前期	「発達障害 (1)」 知的障害について理解する。	「知的障害への対応」 知的障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
18	前期	「発達障害 (2)」 自閉症スペクトラム障害について理解する。	「自閉症スペクトラム障害への対応」 自閉症スペクトラム障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
19	前期	「発達障害 (3)」 学習障害、注意欠陥多動性障害について理解する。	「学習障害、注意欠陥多動性障害への対応」 学習障害、注意欠陥多動性障害の定義と対応について説明できる。	菅 吉基
20	前期	「科目試験」	「科目試験と解説、まとめ」	菅 吉基
成績評価方法	<p>科目試験にて 100 点満点で、90 点は 5 択の選択問題 10 点は自由記述問題です。 記述問題は自己受容の程度により採点させていただきます。 A10 点 B7 点 C4 点 D1 点の 4 段階評価として、下記基準にて評価します。 A テーマについて行動・思考・感情についての十分な記載がなされた場合。 B テーマについて行動・思考・感情のいずれか 2 つのみ、もしくは十分な記載がない場合。 C テーマについて行動・思考・感情のいずれか 1 つのみ、もしくは表面的な記載の場合。 D テーマについて記載されているが、文章量が乏しく、自己内省の程度を判断できない場合。</p>			
準備学習など	<p>言語聴覚士・対人援助職にとって、他者の気持ちを理解することは、大切な技術になります。 他者理解を深めるために、自己理解を深めてください。 国家試験に向けて、過去問の対策も進めて頂ければ幸いです。 疑問がありましたら、どんなことでもご質問ください。</p>			
留意事項	特になし			



学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	学習・認知心理学	
担当者	堀田 千絵	
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 心理学 第5版 鹿取広人、杉本敏夫著 東京 大学出版会	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>知覚・学習・記憶・思考の領域に関するこれまでの実験心理学的研究ならびにそれらに基づいて構築された心理学理論について示す。</p> <p>授業目的</p> <p>知覚・学習・記憶・思考の領域に関する指導の基本について理解を深めるために、実験心理学的研究に基づいて構築された心理学理論を理解し、それらに基づいた支援の重要性を認識することができる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「心理学の視点」 心理学とはどのような学問であるのかについて理解する。	「心理学の視点と基本」 心理学の基本について具体的に述べ、説明することができる。	堀田千絵
2	前期	「学習・認知心理学の位置づけ」 学習認知心理学とは心理学の中のどのような位置づけにあるのか理解する。	「学習認知心理学の位置づけ：心理学の歴史的観点から」 心理学の歴史について何も見ずにその流れを説明できること、その上で学習認知心理学の成り立ちを具体的に説明することができる。	堀田千絵
3	前期	「感覚・知覚（1）」 心理学における感覚・知覚の領域について理解する。	「感覚・知覚の仕組み：感覚の基本的な種類精神物理学的測定法、視知覚系の仕組みについて」 感覚・知覚の仕組みについて、視知覚系の仕組みを説明しながら、その具体的な測定法としての精神物理学の種々の方法を具体例と共に説明することができる。	堀田千絵

4	前期	「感覚・知覚（２）」 心理学における感覚・知覚の領域について理解する。	「感覚・知覚の仕組み：形の知覚、奥行き知覚、運動知覚について」 感覚・知覚の仕組みについて、形、奥行き、運動の観点から、それらを比較しながらその仕組みを具体的に述べることができる。	堀田千絵
5	前期	「学習（１）」 心理学における学習の領域について、主に条件づけの観点から理解する。	「学習の仕組み：古典的条件付けについて」 古典的条件付けの実験手続きを踏まえ、学習の基本的な原理を捉え、人の学習の仕組みに応用しながら何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
6	前期	「学習（２）」 心理学における学習の領域について、主に条件づけの観点から理解する。	「学習の仕組み：道具的条件付けについて」 道具的条件付けの実験手続きを踏まえ、学習の基本的な原理を捉え、人の学習の仕組みに応用しながら何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
7	前期	「学習（３）」 心理学における学習の領域について、主に技能学習、社会的学習の観点から理解する。	「学習の仕組み：技能学習・社会的学習について」 技能学習、社会的学習における学習の基本的な原理を捉え、人の行動の仕組みを理解し、何も見ないで説明することができる。	堀田千絵
8	前期	「注意」 心理学における認知の領域について、主に注意の観点から理解する。	「注意の仕組み：自動処理と制御処理について」 人の注意の仕組みを理解することで、感覚・知覚に次ぐ重要な処理過程であることについて具体的実験デモンストレーションを体験した上で説明することができる。	堀田千絵
9	前期	「記憶（１）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：時間的観点からの理解」 人の記憶の仕組みについて時間的観点（特に、感覚記憶、短期記憶、長期記憶）の観点から何も見ずに説明することができる。ワーキングメモリの必要性についても具体例と共に述べるすることができる。	堀田千絵
10	前期	「記憶（２）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：処理的観点からの理解」 人の記憶の仕組みについて処理的観点（特に、符号化、検索、処理水準）の観点から何も見ずに説明することができる。	堀田千絵

11	前期	「記憶（３）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：忘却からの理解」 人の記憶の仕組みについて忘却の観点から、忘却の生起要因について具体的実験手続きと共に、何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
12	前期	「記憶（４）」 心理学における認知の領域について、主に記憶の観点から理解する。	「記憶の仕組み：時間、処理を含む総合的な視点で理解する」 人の記憶の仕組みについて、時間、処理、忘却の一連の過程を捉え、多様な観点から何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
13	前期	「概念形成・概念獲得」 心理学における認知の領域について、主に概念の観点から理解する。	「概念形成・概念獲得の過程について」 概念形成並びに概念獲得の過程について、逆転学習と非逆転学習の具体的実験に基づき発達的な観点を踏まえながら具体的に説明することができる。	堀田千絵
14	前期	「思考・知能・推論・問題解決」 心理学における認知の領域について、主に思考・知能・推論・問題解決の観点から理解する。	「思考・知能の仕組みについて」 知能のとらえ方や発達的な観点からとらえた知能の定義の変遷、推論のタイプ、問題解決にかかわる妨害要因について何も見ずに説明することができる。	堀田千絵
15	前期	「まとめと評価（科目試験）」 科目試験とまとめで学習・認知心理学の全概要を理解する。	「学習認知心理学全体の振り返りと評価（科目試験）」 学習・認知心理学の各領域のポイントと領域間の流れを何も見ずに具体的に述べる ことができる。	堀田千絵
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点で 60 点は多肢選択方式、語句の穴埋め、40 点は記述式です。記述式は誤字脱字、必要な語が含まれない場合に減点する方式で採点します。		
準備学習など		言語聴覚士にとって学習・認知心理学は必要不可欠な知識になります。臨床で役立つ内容にしていますので積極的に取り組んでください。疑問があればどんどん質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1年次
科目名	心理測定法
担当者	木田 千裕
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義（一部，演習と実習）
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：「心理測定法への招待・測定から見た心理学入門」サイエンス社

<p>授業概要と目的</p> <p>授業概要：心理学はしばしば「人間を含む生活体がどのような状況の下で、どのように行動するかを客観的に記述し、生活体の行動を理解し、予測し、統御するための行動の法則を求める科学」と定義される。ここでは心の科学としての心理学のその研究対象や方法について概説する。</p> <p>授業目的：本講座では、日常における事象を心理学的観点から理解する力、およびその事象を測定するための手法を理解し修得することを目的とする。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「イントロダクション」  一般目標：本講義の目標および評価方法を理解する	「心理学，心理測定法について学ぶ」  到達目標：なぜ心理測定法が重要か，心理学的観点にもとづき，他の人に説明できる	木田千裕
2	前期	「心理測定法の概観」  一般目標：心理測定法の内容およびその目的を理解する	「代表的な心理測定法について学ぶ」  到達目標：心理学の代表的な研究例，心理的測定法の主要法を挙げることができる	木田千裕
3	前期	「心理統計の基礎」  一般目標：心理統計に用いられる初歩的な用語を理解する	「初歩的な統計用語について学ぶ」  到達目標：平均値や分散，標準偏差，相関などの統計用語について，具体的な例を示しながら説明できる	木田千裕
4	前期	「テスト理論」  一般目標：古典的テスト理論の特徴や重要概念について理解する	「古典的テスト理論について学ぶ」  到達目標：古典的テスト理論の重要性，および信頼性・妥当性の違いについて説明できる。信頼性の測定法・妥当性の種類について挙げることができる	木田千裕

5	前期	「精神物理学」 一般目標：精神物理学がどのような学問体系か、および精神物理学における測定法を理解する	「精神物理学における重要用語と閾値の測定法について学ぶ」 到達目標：精神物理学における重要用語について説明できる。特に、閾値の各測定方法について、他の方法との類似点・相違点を示しつつ説明できる。	木田千裕
6	前期	「実験法の概説」 一般目標：実験法の特徴と実験法で用いられる用語を理解する	「実験法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：実験法の特徴、および長所と短所について説明できる	木田千裕
7	前期	「実験法の実習」 一般目標：実験法の枠組みにもとづき、具体的な研究計画を構想する	「具体的な実験計画を立案する」 到達目標：独立変数と従属変数を定める形で、複数の実験計画を考案できる	木田千裕
8	前期	「調査法の概説」 一般目標：調査法の特徴および実験法で用いられる用語を理解する	「調査法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：調査法の特徴、および長所と短所について、既習の実験法と対比しながら説明できる	木田千裕
9	前期	「調査法の実習」 一般目標：調査法の枠組みにもとづき、具体的な質問項目を作成する方法を修得する	「調査法で用いる質問項目の作成について学ぶ」 到達目標：測定したい心理的概念に相応しい質問項目を複数考案することができる	木田千裕
10	前期	「観察法の概説」 一般目標：観察法の特徴および実験法で用いられる用語を理解する	「観察法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：観察法の特徴、および長所と短所について、既習の実験法・調査法と対比しながら説明できる	木田千裕
11	前期	「観察法の実習」 一般目標：観察法の枠組みにもとづき、人の行動を測定する方法を修得する	「観察法で用いる行動指標の測定手法について学ぶ」 到達目標：測定したい心理的概念に相応しい行動指標を考案することができる	木田千裕
12	前期	「その他の測定法」 一般目標：検査法、面接法などの測定法の特徴および実験法で用	「検査法・面接法の特徴、長所・短所について学ぶ」 到達目標：検査法・面接法の特徴、および長所と短所について、既習の測定法と対比	木田千裕

		いられる用語を理解する	しながら説明できる	
13	前期	「心理統計の応用」 一般目標：心理統計に用いられる 応用的な用語を理解する	「応用的な統計用語について学ぶ」 到達目標：各統計的分析手法と、それが適 用可能なデータ・仮説を正しく組み合わせ ることができる	木田千裕
14	前期	「まとめと国家試験対策」 一般目標：国家試験に頻出される 範囲の事項について理解する	「精神物理学，尺度，信頼性・妥当性につ いて学ぶ」 到達目標：精神物理学，尺度，信頼性・妥 当性について説明できる。国家試験過去問 のうち，これらを含む典型的な問題に正解 できる	木田千裕
15	前期	「評価と解説（まとめ）」 一般目標：試験を通して，自身の 理解度を確認し，今後の学習方針 を定める	「科目試験」 到達目標：規程の点数をクリアする。テス トの振り返りを受講し，今後の学習方針を 立てる	木田千裕
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など		予習復習に努めること。特に，本講座は国家試験の該当範囲のため，講義で学んだ内容に関する範囲の過去問を解いてみるなどの復習を積極的に行うと効果的だと思います		
留意事項		講義が中心ですが，ほとんどの授業においてグループワークを設けます。グループワークに積極的に取り組んで，授業内容に関する興味と理解を深めてください。		

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	言語学	
担当者	久保田樹	
単位数（時間数）	2単位（40時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書	参考書 佐久間淳一，町田健，加藤重広『言語学入門 —これから始める人のための入門書—』研究社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語類型論，音声学，音韻論，形態論，統語論，意味論，社会言語学，文字論，語用論，日本語文法といった幅広い言語学の幅広い諸分野を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>身につけた言語に対する個々の知識を総合し，人間の言語の本質を理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「言語学概論」 人間の言語の役割と特徴を理解する。	「人間言語に共通する特徴」 全言語に共通の特徴，人間の言語と動物の「言語」との違いを説明することができる。	久保田樹
2	前期	「言語類型論」 言語の系統，言語類型において日本語を位置づける。	「世界の言語と日本語」 系統や複数の文法的特徴による分類において，日本語がどのタイプか言える。	久保田樹
3	前期	「音声学」 国際音声字母に慣れ，音声器官や構音法の種類を知る。	「日本語の調音音声学」 日本語のすべての音について，構音位置，構音法，有声か無声かを正しく言える。	久保田樹
4	前期	「音韻論」 音声学と音韻論の違いを理解し，日本語の音韻体系を把握する。	「音韻体系，日本語のアクセント」 日本語の語のモーラ数／音節数が数えられ，どのアクセントパターンか判別できる。	久保田樹
5	前期	「形態論①」 形態素の種類や語の内部構造を知る。	「日本語の語」 日本語の語の内部構造の特徴について修得し，形態素数を数えることができる。	久保田樹

6	前期	「形態論②」 合成語、複合語といった語形成について理解を深める。	「日本語の複合語」 日本語の複合語についてそのパターンを峻別することができる。	久保田樹
7	前期	「形態論③」 日本語の語彙の種類とそれぞれの特徴、品詞を理解する。	「語種、項」 動詞が1項なのか2項なのか3項なのか、形容詞が1項なのか2項なのか判断できる。	久保田樹
8	前期	「統語論①」 日本語の文の内部構造を考察する。	「直接構成素分析、従属節」 文の構造を[ ]を使って表すことができる。従属節の始まりを指摘できる。	久保田樹
9	前期	「統語論②」 意味役割、文法関係、格、情報構図という各レベル内の分類を把握する。	「項と述部の関係」 特に、格助詞「が」と副助詞「は」の違いを明確に述べることができる。	久保田樹
10	前期	「中間まとめ」 第9回までの内容を振り返り、疑問点を解決する。	「第1回～第9回の復習」 これまでに得た知識を活用して国家試験過去問が解ける。	久保田樹
11	前期	「意味論①」 意味の分析法、語の意味関係にどのようなものがあるかを修得する。	「語とその意味」 語同士の意味関係を指摘できる。語のペアが同音異義語なのか多義語なのか判別できる。	久保田樹
12	前期	「意味論②」 比喩の種類を把握する。語の連なりに意味的制約があることに気づく。	「比喩、語の連なり」 比喩を、直喩、隠喩、換喩、提喩に分類できる。	久保田樹
13	前期	「語用論」 文脈を意識し、文そのままの意味で発話されていない場合があることを認識する。	「発話の意味」 意味論的意味と語用論的意味の違いを正確に述べることができる。	久保田樹
14	前期	「敬語」 待遇表現としての日本語の敬語の分類を理解する。	「日本語の敬語体系」 敬語表現の種類を分類できる。特に謙讓語と丁重語を区別できる。	久保田樹
15	前期	「社会言語学・文字論」 ことばのバリエーション、文字の特性と種類を把握する。	「社会方言、日本語の文字」 社会方言にどのようなものがあるか列挙できる。漢字、カタカナ、平仮名の各特徴を説明することができる。	久保田樹



16	前期	「テンス・アスペクト」 動詞範疇の種類を覚える。日本語における過去／非過去，完了／未完了の違いを押さえる。	「過去／非過去，完了／未完了」 「～タ」「～テイル」が文中においてどのような意味用法で用いられているか言える。	久保田樹
17	前期	「ヴォイス・モダリティ」 日本語のヴォイスとモダリティにどのようなものがあるかを理解する。	「受身，可能，自発，使役」 「～レル」という形式が「ら抜き」なのかどうか判別できる。直接受身と間接受身を区別できる。	久保田樹
18	前期	「その他の日本語文法」 音便，助詞，オノマトペ，連体修飾，動詞の活用の種類を修得する。	「連体修飾の種類」 連体修飾が外の関係なのか内のか，制限的連体修飾なのか非制限的連体修飾なのか識別できる。	久保田樹
19	前期	「まとめ」 第11回から第18回までの内容を振り返り，疑問点を解決する。	「第11回～第18回の復習」 カタカナの言語学用語を聞いてその意味が正しく分かる。国家試験過去問が解ける。	久保田樹
20	前期	「学科試験，解説」	「学科試験，解説」	久保田樹
成績評価方法		学科試験 100%。国試と同形式の 5 択。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音声学	
担当者	橋本 慎吾	
単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 なし	参考書 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚士に必要な日本語音声に関する知識、特に構音に関する知識を身につける。</p> <p>授業目的</p> <p>私たちが普段使っている日本語の音声コミュニケーションに関する理解を深め、日本語の音声的側面について客観的に考察することができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「子音の構音特性 1: 構音器官と構音点」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「構音点について」 「パ・タ・カ」をどのように発音しているかが説明できる。	橋本 慎吾
2	前期	「子音の構音特性 2: 破裂音・摩擦音・鼻音」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「構音法について」 「サ・タ・ナ」をどのように発音しているかが説明できる。	橋本 慎吾
3	前期	「子音の構音特性 3: その他の音」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「構音法について」 「ヤ・ラ・ワ」などをどのように発音しているかが説明できる	橋本 慎吾
4	前期	「母音の構音特性」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「母音の構音特性について」 子音と母音の違いを理解し、母音をどのように発音しているかが説明できる	橋本 慎吾
5	前期	「日本語の母音」 言語音の発音を理解するために 「構音」について学ぶ	「日本語 5 母音の構音特性について」 「アイウエオ」をどのように発音しているかが説明できる。	橋本 慎吾

6	前期	「日本語にない音」 日本語では使わない音があることを学び、音を聞き取るプロセスについて考察する	「音声と音韻について」 外国語の音を日本語の音としてどのように理解しているかが説明できる	橋本 慎吾
7	前期	「音韻論 1：音素」 日本語の音韻について学ぶ	「音素について」 日本語の意味理解に必要な音韻とはどのようなものかが説明できる。なぜ「タカ」と「サカ」が違う意味の語だと分かるのかが説明できる。	橋本 慎吾
8	前期	「音韻論 2：異音」 日本語の音韻について学ぶ。	「異音について」 日本語には聞き分けている音と聞き分けていない音があることが説明できる。	橋本 慎吾
9	前期	「拍」 日本語の音の単位である拍について学ぶ	「拍について」 日本語の音を子音母音ではなく拍で捉えていることが説明できる。	橋本 慎吾
10	前期	「拍と音節」 言語の音の単位である音節について学ぶ。また拍と音節の違いについて学ぶ	「拍と音節の違いについて」 音節とはどのような単位か、拍とどう違うかが説明できる。	橋本 慎吾
11	前期	「超分節的特徴 1：語アクセント」 分節音（子音・母音）より大きな範囲で起きる音声現象について学ぶ	「アクセントについて」 「はし」をどのように「箸」「橋」「端」に言い分けるかが説明できる。	橋本 慎吾
12	前期	「超分節的特徴 2：複合アクセント」 分節音（子音・母音）より大きな範囲で起きる音声現象について学ぶ	「複合アクセントについて」 「名古屋」と「名古屋市役所」のアクセントの違いについて説明できる	橋本 慎吾
13	前期	「超分節的特徴 3：イントネーション」 分節音（子音・母音）より大きな範囲で起きる音声現象について学ぶ	「イントネーションについて」 文の意味をどのように表しているかが説明できる。	橋本 慎吾
14	前期	「構音まとめ」 誤った発音の原因を一つ一つの単音（子音・母音）の構音から考察する	「子音・母音の構音について」 何も見ずに「パ」の子音と母音の構音特性を正しく書くことができる	橋本 慎吾

15	前期	「演習」 構音特性、超分節的特徴、音素と異音などについて演習問題を解く	「日本語の音声について」 何も見ずに構音特性やアクセント・イントネーションなどについて正しく説明することができる。	橋本 慎吾
16	前期	「拡大五十音図」 日本語の音韻と音声の対応について学ぶ	「行における異音について」 「サシスセソ」の「シ」のように、同じ行に異なる子音があることが説明できる	橋本 慎吾
17	前期	「音声（IPA）表記」 日本語の音を国際音声字母（IPA）で音声表記することを学ぶ	「日本語の音声表記について」 「フジサン」を正しく音声表記することができる。	橋本 慎吾
18	前期	「二項分類1：弁別的特徴」 音を特徴を基に分類し体系化することについて学ぶ	「弁別的特徴について」 なぜ「タカ」と「サカ」が違う意味だと分かるのかが説明できる。	橋本 慎吾
19	前期	「二項分類2：欠如的対立」 音を特徴を基に分類し体系化することについて学ぶ	「二項分類について」 なぜ「タカ」と「サカ」が違う意味だと分かるのかが説明できる。	橋本 慎吾
20	前期	「子音の音韻論的解釈」 子音を特徴を基に分類し体系化することについて学ぶ	「子音の二項分類について」 日本語の子音がどのような音韻体系になっているかが理解できる。	橋本 慎吾
21	前期	「母音の音韻論的解釈」 母音を特徴を基に分類し体系化することについて学ぶ	「母音の二項分類について」 日本語の母音がどのような音韻体系になっているかが理解できる。	橋本 慎吾
22	前期	「音韻現象1：同化」 環境によって生じる音の変化について学ぶ	「同化について」 なぜ「さんま」と「さんか」の「ん」が異なる音になるのかが説明できる。	橋本 慎吾
23	前期	「音韻現象2：強化・弱化など」 環境によって生じる音の変化について学ぶ	「音韻現象について」 どのような環境でどのような音の変化が生じるかが説明できる	橋本 慎吾
24	前期	「音韻現象まとめ・副次構音」 環境によって生じる音の変化について学ぶ	「副次構音について」 どのような環境でどのような音の変化が生じるかが説明できる	橋本 慎吾

25	前期	「超分節的特徴と文法」 文の文法構造と韻律との対応について学ぶ	「文法構造と韻律について」 文の文法をどのように音声で表すかが理解できる。	橋本 慎吾
26	前期	「音響音声学 1：高さ」と長さ」 日本語音声の音響的側面から理解する	「基本周波数について」 音の高さ（基本周波数）が音声とどのように対応しているかが理解できる。	橋本 慎吾
27	前期	「音響音声学 2：単音」 日本語音声の音響的側面から理解する	「子音と母音の音響的特徴について」 「アイウエオ」の音響的相違が説明できる。	橋本 慎吾
28	前期	「音響音声学 3：構音特性と音響特徴」 日本語音声の音響的側面から理解する	「構音特性と音響特徴の対応について」 破裂音と摩擦音が音響的にどのように違うかが説明できる。	橋本 慎吾
29	前期	「聴覚音声学：音声の知覚」 日本語音声の知覚的側面から理解する	「言語音の知覚について」 「カタ」と「カッタ」をどのように聞き分けているかが理解できる。	橋本 慎吾
30	前期	「定期試験」 科目試験を通して各回の講義内容を理解する。	科目試験の問題を解くことができる。	橋本 慎吾
成績評価方法		学科試験 100%		
準備学習など		言語聴覚士にとって構音などの音声学的知識は必要不可欠です。普段何も考えずに行っている自分自身の発音を客観的に捉えてみましょう。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音響学	
担当者	橋本 慎吾	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 なし	参考書 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』医学書院 『言語聴覚士のための音響学』医歯薬出版 『言語聴覚士のための音響学入門』海文堂

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語音声は音であるから、言語的側面だけでなく音の側面の理解も必要になる。この授業では、音の 3 属性（高さ・大きさ・音色）を基本として、音、特に言語音を音響的に理解することを目指す。</p> <p>授業目的</p> <p>音響知識を学ぶことにより、言語音を音の側面から見るができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「音の 3 属性・音の高さ」 音の 3 属性（高さ・大きさ・音色）を理解する	「音の 3 属性・音の高さ」 音の感覚量（高さ・大きさ・音色）に対応する物理量（周波数など）を理解し、音速・周期・波長の意味が説明できる	橋本 慎吾
2	通年	「音色 1：純音と複合音」 複合音（周期複合音と雑音）の特徴を理解する	周期音と非周期音の違いが説明できる。基本周波数とは何かが説明できる。	橋本 慎吾
3	通年	「音色 2：スペクトル」 周期複合音の音色を表す倍音構造を理解する	線スペクトルと連続スペクトルの違いが説明できる。スペクトルによって音色を表すことができることを理解する。	橋本 慎吾
4	通年	「共鳴と定常波」 言語音生成の基礎となる共鳴を理解する	定常波（共鳴）の発生条件と、共鳴周波数が計算できる。	橋本 慎吾
5	通年	「閉管の共鳴」 言語音生成の基礎となる閉管（声道）の共鳴を理解する	人間の声道で起きている共鳴を理解するために、閉管の共鳴の発生条件と共鳴周波数が計算できる。	橋本 慎吾

6	通年	「母音の音響的特徴」 母音の構音特性と音響特徴の対応を理解する	5 母音の音響特徴がフォルマント周波数にあることを理解し、音響特徴から母音の特定ができる。	橋本 慎吾
7	通年	「声道フィルタ理論と音源」 言語音生成プロセスを 声帯振動と声道共鳴で理解する	声帯と声道の機能を理解し、母音生成機構（喉頭原音から母音発生まで）が説明できる。	橋本 慎吾
8	通年	「子音の音響的特徴」 子音生成プロセスと音響特徴の対応を理解する	スペクトログラムを使って子音の音響特徴を捉え、破裂音・摩擦音・鼻音の音響特徴が説明できる。	橋本 慎吾
9	通年	「言語音の音の高さと長さ」 言語音における高さ・長さに関係する音響特徴を理解する	高さに関する特徴（アクセント・イントネーションなど）と長さに関する特徴（拍・特殊拍など）が説明できる	橋本 慎吾
10	通年	「音の大きさ 1：強さレベル」	音の大きさをデシベルで表現することの意味を理解し、強さに基づく強さレベルの計算ができる。	橋本 慎吾
11	通年	「音の大きさ 2：音圧レベル」	音の大きさをデシベルで表現することの意味を理解し、音圧に基づく強さレベルの計算ができる。また、強さと音圧の変化の違いが説明できる。	橋本 慎吾
12	通年	「言語音の音響的特徴」 言語音の特徴に対応する音響特徴を理解する	分節音の分節的特徴・超分節的特徴など、言語音を音響の面から説明できる。	橋本 慎吾
13	通年	「音響特徴と知覚」 言語音の知覚に対応する音響特徴を理解する	言語音の音響特徴が知覚とどのように関係しているかが説明できる。	橋本 慎吾
14	通年	「デジタル信号処理とサンプリング その他」 音のデジタル化を理解する。	言語音に直接関係しない音響的側面が理解できる。音をデジタル化すること（デジタルサンプリング）、屈折や回折などが理解できる。	橋本 慎吾
15	通年	「学科試験」 科目試験を通して各回の講義内容を理解する。	科目試験の問題を解くことができる。	橋本 慎吾
成績評価方法		学科試験 100%		

準備学習など	少しだけ数学の知識が必要ですが、それが本筋ではありませんので、計算なしでも理解できるように授業を進めていきます。また理解確認のための問題を示しますので、分からないところがあれば質問してください。
留意事項	特になし



学科・年次	言語聴覚学科 1 学年	
科目名	聴覚心理学	
担当者	岩月 真也	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 指定なし	参考書 『言語聴覚士のための音響学』、吉田友敬、海文堂など

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>様々な「音」の聴取に関する実験結果を提示することによって音の認識がいかに行われているかを解説する。</p> <p>目的</p> <p>人間がどのように日常周りにある「音」を聞き、認識しているかを理解できるようにする。またさまざまな聴取実験・検査等のしくみを音響学的に理解することを目標とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚心理学とは何か」 聴覚心理学の概要について理解する。	「聴覚心理学と他の分野のかかわりについて」 聴覚心理学と他の分野、殊に音声学と音響学とのかかわりについて理解できるようになる。	岩月 真也
2	通年	「音の強さと大きさ」 音の大きさ強さの関係・違いを理解する。また音の基本的な特徴についても復習をする。	「音とは何か」 音とはどんな実態を持ったものなのかを理解し、大きさと強さの違いについて説明できる。	岩月 真也
3	通年	「音のエネルギーとデシベル」 デシベルという尺度が意味するところを対数の計算から理解する。	「デシベルとは何か」 音の大きさや強さを理解するうえで極めて重要なデシベルについて理解をする。デシベル値はそれ自体は絶対的な音の強さを表すものではないことを説明できる。	岩月 真也
4	通年	「デシベルの基準値 SPL」 音圧レベル (SPL) とはどのようなものかを理解する。	「物理的な尺度となる SPL」 SPL について、音の強さを表す絶対的な尺度であることが説明できる。	岩月 真也

5	通年	「デシベルの基準値聴力レベル (HL) と音の等感曲線」 2つ目のデシベルの基準値である HL の特性を理解する。	「音の等感曲線」 HL にはさまざまな基準があることを理解し、音の等感曲線が読めるようになる。	岩月 真也
6	通年	「デシベルの基準値感覚レベル (SL)」 3つ目のデシベルの基準値である SL について理解する。	「感覚レベルの意味するところ」 聴覚検査などでも多用される SL の理解し、説明できる。	岩月 真也
7	通年	「音の等感曲線と phon」 Phon という尺度を導入する。これがどのような意味を持つのかを理解する。	「phon 尺度」 phon 尺度を使って音の大きさを評価できるようになる。	岩月 真也
8	通年	「フェヒナーの法則」 フェヒナーの法則について理解し、デシベルとの関係を理解する。	「フェヒナーの法則の理解」 人間が多様な量の刺激に反応できるしくみを理解できるようになる。またそれがデシベルとどう関わりがあるかも理解し、説明できる。	岩月 真也
9	通年	「スティーブンスのべき法則」 スティーブンスのべき法則を理解し、フェヒナーの法則との違いが分かるようにする。	「スティーブンスのべき法則と sone 尺度」 フェヒナーの法則とスティーブンスのべき法則の違いを理解でき、sone 尺度が使えるようになる。	岩月 真也
10	通年	「音の高さとオクターブ」 音の高さに関する知覚がどのように行われているかを理解する。	「音の高さとオクターブ」 音の高さに関する概要を理解し、次回以降の知覚の仕組みを理解するうえでの基礎を作ることが出来る。	岩月 真也
11	通年	「mel 尺度」 音の高さの感覚尺度である mel 尺度について理解を深める。	「音の高さの感覚と mel 尺度」 音の高さの感覚と mel 尺度に関して理解し、高さがどのように知覚されているのかを説明できる。その際、大きさの知覚との比較もできるようになる。	岩月 真也
12	通年	「同時マスキング」 同時マスキングについて、理解をする。	「同時マスキングと雑音」 同時マスキングについて理解し、どのような雑音が最も効果的かを判断できるようにする。	岩月 真也
13	通年	「その他のマスキング」 その他のマスキング継時マスキングやカクテルパーティー効果について理解する。	「マスキングのまとめ」 マスキングについて概要を理解し、心理実験などで使用できるようにする。	岩月 真也

14	通年	「両耳聴、国試演習」 音を両耳で聞くとどのようなことが起こるか理解する。国家試験の問題を解けるようにする。	「両耳聴、国試演習」 両耳加算効果や MLD、ハース効果などを理解して使えるようにする。また国家試験の問題演習を通して、全体のまとめをする。	岩月 真也
15	通年	「学科試験」	「学科試験」	岩月 真也
成績評価方法		学科試験による。記述 30 点程度、選択 70 点程度。		
準備学習など		本科目と関連の深い音響学および音声学の復習をよくしておくこと。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語発達学	
担当者	久保田 樹	
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 岩立志津夫ほか（2017）『よくわかる言語発達 改訂新版』ミネルヴァ書房.	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>子どもの言語発達について、認知能力や社会性の発達との関係をふまえて、その過程と仕組みとを学修する。</p> <p>授業目的</p> <p>人間の言語発達の特徴を理解することを目指し、乳児期から児童期にかけてのことばに関係する発達について、その出現順序・時期、発達同士の相互関係、発達の要因等を体系的に把握する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「母語獲得のゴール」 言語発達学を学ぶにあたって、 母語獲得のゴールを理解する。	「母語話者の言語能力」 母語話者の言語能力について、言語能力 の性質、種類、状態を具体例とともに説明 できるようになる。	久保田 樹
2	通年	「前言語期の発達 1：言語に関係 する発達」 前言語期の言語的発達につい て理解する。	「初語出現に至るまでの過程」 誕生から初語出現までの、発声面・言語 理解面の発達を時系列に沿って説明できる ようになる。	久保田 樹
3	通年	「前言語期の発達 2：認知・社会 性の発達」 前言語期の認知・社会性の発達 について理解する。	「認知・社会性の発達、言語発達との関連 性」 誕生から初語出現までの、認知・社会性 に関する発達の順序・時期、また、それら と言語発達との関係について説明できるよ うになる。	久保田 樹
4	通年	「音声に関する発達」 音声知覚・産出の発達について 理解する。	「音声知覚・産出の発達」 音声知覚に関しては、生得的特徴、発達 の過程、知覚の方略について説明できるよ うになる。発音に関しては、発達の順序・ 時期について説明できるようになる。	久保田 樹

5	通年	「語彙に関する発達1：初期の発達」 前言語期，1語期，2語期の語彙発達の特徴について理解する。	「前言語期，1語期，2語期の語彙発達」 前言語期に関しては，理解語彙の特徴について説明できるようになる。1語期，2語期に関しては，両時期の語彙発達の特徴について，相違点を明確にしながら説明できるようになる。語彙発達と認知能力・傾向との関係も説明できるようになる。	久保田 樹
6	通年	「語彙に関する発達2：語彙獲得の順序」 語彙獲得の順序・時期，その順序の理由について理解する。	「語彙発達の順序・時期」 大小，多少，高低，長短等に関する語彙，感情に関する語彙，指示語，疑問語などの発達順序・時期について説明できるようになる。また，その順序となる理由についても説明できるようになる。	久保田 樹
7	通年	「文法に関する発達1：発達の過程」 1語期，2語期，そして，その先の文法発達の過程について理解する。	「1語期，2語期，その先の文法発達」 文構成語数増加の過程や，助詞・助動詞の発達過程について説明できるようになる。	久保田 樹
8	通年	「文法に関する発達2：文法の誤用」 助詞の誤用について，その特徴を理解する。	「助詞誤用の特徴」 助詞の誤用について，誤用の多い助詞，誤用の原因，改善の過程などについて説明できるようになる。	久保田 樹
9	通年	「文法に関する発達3：発達鳥瞰」 既学習事項を鳥瞰的な視点から整理・理解する。	「発達過程の全体像」 文法発達の過程の全体像を，音・語彙・認知・社会性に関する発達の過程と併せて把握し，乳幼児期の発達について鳥瞰的な視点をもって説明できるようになる。	久保田 樹
10	通年	「問題演習1：到達度・課題の確認」 問題演習と教員からの解説とをとおして，自らの到達度・課題を確認する。	「既学習事項に関する到達度・課題の確認」 第1回～第9回までの学習事項について，確認問題に取り組み，教員の解説によって復習することで，自らの理解度を把握し，到達度・課題を認識する。	久保田 樹
11	通年	「語用に関する発達」 状況や常識などを考慮に入れて適切に言語を使用・理解する能力の発達について理解する。	「適切な言語使用・理解の発達」 日常の言語使用・理解において状況や常識等を把握することの重要度の高さについて，また，それらを考慮に入れた間接的表現の発達について説明できるようになる。	久保田 樹

12	通年	「談話に関する発達」 会話や語りにおいて適切に話のまとまりを形成する能力の発達について理解する。	「適切な会話、語りの発達」 会話に関する社会的ルールの獲得過程について、また、語りにおける情報提示の発達過程について説明できるようになる。	久保田 樹
13	通年	「読み書きに関する発達」 読み書きの発達、およびそれに関連する認知能力の発達について理解する。	「読み書きの発達、関連能力の発達」 読み書きの兆し、読み書きの発達、関連する認知能力の発達、発達の支援について、発達時期に分けて説明できるようになる。	久保田 樹
14	通年	「メタ言語能力に関する発達」 メタ言語能力とは何か、また、それはどのような行為・事象として現れ、どう発達していくのかについて理解する。	「メタ言語能力の特徴、発達過程」 言語能力とメタ言語能力との違いについて説明できるようになる。また、メタ言語能力の発達時期・段階を事例を用いて説明できるようになる。	久保田 樹
15	通年	「言語獲得理論1：学習論」 言語獲得の仕組みに関する「学習論」の立場について理解する。	「学習論の支持者・主張・問題点」 学習論の代表的な研究者は誰で、何を根拠にどのような主張をしており、その主張に対してどのような問題点が指摘されているかを説明できるようになる。	久保田 樹
16	通年	「言語獲得理論2：生得論」 言語獲得の仕組みに関する「生得論」の立場について理解する。	「生得論の支持者・主張・問題点」 生得論の代表的な研究者は誰で、何を根拠にどのような主張をしており、その主張に対してどのような問題点が指摘されているかを説明できるようになる。	久保田 樹
17	通年	「言語獲得理論3：認知論・社会認知論」 言語獲得の仕組みに関する「認知論・社会認知論」の立場について理解する。	「認知論・社会認知論の支持者・主張」 認知論・社会認知論の支持者とその主張について、主張同士の異同を明確にしながらから説明できるようになる。	久保田 樹
18	通年	「言語獲得理論4：まとめ」 各言語獲得理論を俯瞰的に整理・理解する。	「言語獲得理論鳥瞰」 学習論、生得論、認知論・社会認知論の特徴を体系的に把握し、各論の異同について説明できるようになる。	久保田 樹
19	通年	「問題演習2：到達度・課題の確認」 問題演習と教員からの解説をとおして、自らの到達度・課題を確認する。	「既学習事項に関する到達度・課題の確認」 第1回～第18回までの学習事項について、確認問題に取り組み、教員の解説によって復習することで、自らの理解度を把握し、到達度・課題を認識する。	久保田 樹

20	通年	<p>「科目試験」</p> <p>科目試験と教員からの解説とをとおして、自らの到達度・課題を確認する。</p>	<p>「最終到達度・課題の確認」</p> <p>本授業での学習事項について、科目試験の問題に取り組み、教員の解説によって復習することで、自らの理解度を把握し、到達度・課題を認識する。</p>	久保田 樹
成績評価方法		科目試験 100%。国家試験と同形式の 5 択。		
準備学習など		各回の授業ののち、教科書にて、その回で取り上げたテーマに関連する部分を読んで学習事項の復習を行うこと。		
留意事項		特になし。		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	リハビリテーション概論	
担当者	百々 加奈子・田中 敏彦・小出 悠介	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士テキスト第3版 大森孝一他 医歯 薬出版	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>リハビリテーションの定義や病気・障害の概略、各分野のリハビリテーションについて学ぶ。</p> <p>授業目的</p> <p>さまざまな分野において実施されているリハビリテーションについて、その内容の理解と実施方法を理解する。さらに作業療法、理学療法について理解を深め、車いす等の扱い方も理解する。</p> <p>現場で経験を積んだ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がその経験を活かし講義を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「リハビリテーションとは何か」 リハビリテーションの定義や 理念、歴史、近年の日本の制度と の関連を理解する	「リハビリテーションとは何か」 リハビリテーションの定義や理念、歴史、 近年の日本の制度との関連を説明できる	百々加奈子
2	前期	「病気・障害とは何か」 病気や障害の定義について理 解し、さらに障害については構造 的枠組みについても理解する	「病気・障害とは何か」 病気や障害の定義について、さらに障害 については構造的枠組みについて説明でき る	百々加奈子
3	前期	「作業療法と理学療法」 ・リハビリテーションの専門職で ある理学療法士（PT）と作業療 法士（OT）の概要と職域、専門 性について理解する。	「作業療法と理学療法」 ・理学療法、作業療法の英語訳と意味を説 明できる。 ・それぞれの職種の職域と専門性を説明で きる。 ・「能力の維持・改善」の3種類の能力を 説明できる。	田中敏彦



4	前期	「演習」 車椅子の各部位の名称や役割について理解する。さらに、車椅子の扱い方や介助方法について理解し、実際に体験する	「車いす等の扱い方」 ①車椅子の各部位の名称とその役割を説明できる。 ②車椅子の安全な介助方法と指導方法を説明できるようになる。 ③車椅子操作と介助方法を実際にできるようになる。	小出悠介
5	前期	「医学的リハビリテーションについて」 医学的リハビリテーションを急性期、回復期、生活期に分類し、各期間について理解する	「医学的リハビリテーションについて」 医学的リハビリテーションを急性期、回復期、生活期に分類し、各期間について説明できる	百々加奈子
6	前期	「教育リハビリテーションと職業リハビリテーションについて」 教育リハビリテーションではインクルージョン（包括教育）や実施体制・実施方法について理解する。職業リハビリテーションでは理念や実施体制・実施方法について理解する。	「教育リハビリテーションと職業リハビリテーションについて」 教育リハビリテーションではインクルージョン（包括教育）や実施体制・実施方法について説明できる。職業リハビリテーションでは理念や実施体制・実施方法について説明できる。	百々加奈子
7	前期	「社会リハビリテーションと地域リハビリテーションについて」 社会リハビリテーションでは理念や実施方法、社会生活力について理解する。地域リハビリテーションでは医学リハビリテーションとの関係や地域組織、介護保険との関連について理解する。	「社会リハビリテーションと地域リハビリテーションについて」 社会リハビリテーションでは理念や実施方法、社会生活力について説明できる。地域リハビリテーションでは医学リハビリテーションとの関係や地域組織、介護保険との関連について説明できる。	百々加奈子
8	前期	「評価・まとめ」 科目試験、まとめにより到達度を確認する	「科目試験・まとめ」 科目試験、まとめにより到達度を説明できる	百々加奈子
成績評価方法		筆記試験（田中、小出の範囲除外）、合計100点にて評価する		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年次
科目名	医療福祉教育・関係法規
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：新体系看護学全書 関係法規 15版 メヂカルフレンド社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>社会生活の中で生活し、活動するために必要な社会的規範について解説する。</p> <p>授業目的</p> <p>医療関係者をめざすものに必須な保健、医療、福祉関係法規の知識を深め理解する。</p> <p>医師がその経験を活かし授業をおこなう</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「健康支援と法律」 法律の基礎知識を理解する。	「人間生活と法律」 法律の基礎知識を修得し生活と法律を関係づけることができる。	中村浩
2	後期	「関係法規1」 医療職種と医療施設に関する法律について理解する。	「関係法規1」 医療職種と医療施設についての法律を踏まえ説明することが出来る。	中村浩
3	後期	「関係法規2」 疾病予防・健康増進に関する法律について理解する。	「関係法規2」 疾病予防・健康増進に関する各法規について学び生活と関係づけて説明できる。	中村浩
4	後期	「関係法規3」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について理解する。	「関係法規3」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩

5	後期	「関連法規4」 医療保険・医薬品・医療機器・食品に関連する法律について理解する。	「関連法規」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩
6	後期	「関係法規5」 労働・教育・環境・生活衛生に関連する法律について理解する。	「関係法規5」 母子・高齢者・社会福祉及び障害者に関連する法律について学び生活と関係づけて説明することが出来る。	中村浩
7	後期	「関係法規6」 言語聴覚士法について理解する。	「関係法規6」 言語聴覚士法について理解し具体的に述べる事が出来る。	中村浩
8	後期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて関係法規の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことが出来る。	中村浩
成績評価方法		科目試験は100点満点で60点以上が合格です。		
準備学習など		生活者の健康を守る大切な法律を十分に理解するために、前もって教科書に目を通しておくとよい。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語聴覚障害概論 I (小児)	
担当者	山田 伊久子	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語発達障害学 第3版 医学書院	参考書 言語聴覚士のための 言語発達障害学 第2版

授業概要と目的
言語聴覚士として臨床経験のある教員が、その臨床経験を交えながら、言語獲得の仕組み、言語発達、言語聴覚士の役割について概観を知る。
授業目的
言語聴覚障害学小児分野の概要を知る。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	言語とコミュニケーション ことばとは、コミュニケーション 障害とはどういうことか分かる	「ことばとは何か」 言語の構造、働き、コミュニケーションの 関係が分かる	山田伊久子
2	前期	「ことばとは何か」 言語の構造、働き、コミュニケーション の関係が分かる	「言語発達の4つの基盤」 生理学的、社会的相互交渉、認知、大脳の 言語中枢の基盤を理解する	山田伊久子
3	前期	「言語発達の4つの基盤」 生理学的、社会的相互交渉、認 知、大脳の言語中枢の基盤を理解 する	「話しことばの障害」 音声障害、器質性構音障害、機能性構音障 害、運動性構音障害、吃音について理解す る	山田伊久子
4	前期	「話しことばの障害」 音声障害、器質性構音障害、機能 性構音障害、運動性構音障害、吃 音について理解する	「言語機能の障害」 言語発達障害、失語症、聴覚障害について 理解する	山田伊久子
5	前期	「言語機能の障害」 言語発達障害、失語症、聴覚障害 について理解する	「言語とコミュニケーションの発達」 正常発達について理解する	山田伊久子

6	前期	「言語発達障害とは」 発達障害の特徴を学ぶ	「発達障害とは」 知的障害、自閉スペクトラム、学習障害、 注意欠如・多動性障害について理解する	山田伊久子
7	前期	〃	〃	山田伊久子
8	前期	「言語聴覚障害への専門的対応」 評価診断	「言語聴覚障害への専門的対応」 評価診断の方法と流れを理解する	山田伊久子
9	前期	「言語聴覚障害への専門的対応」 訓練・指導・援助	「言語聴覚障害への専門的対応」 訓練・指導・援助の方法を理解する	山田伊久子
10	前期	「言語聴覚障害への専門的対応」 言語聴覚療法の提供システム	「言語聴覚障害への専門的対応」 言語聴覚療法の提供システムを理解する	山田伊久子
11	前期	「言語聴覚障害学領域の歴史」 歴史、今後の展望を知る	「言語聴覚障害学領域の歴史」 言語聴覚士が求められている事柄を理解する	山田伊久子
12	前期	「言語聴覚士の職務」 言語聴覚士の仕事について学ぶ	「言語聴覚士の職務」 何を求められているか、職務上の義務について学ぶ	山田伊久子
13	前期	〃	〃	山田伊久子
14	前期	「言語聴覚障害学研究法」 研究に必要な知識基盤とは何か 学ぶ	「言語聴覚障害学研究法」 研究的視点、方法を知る	山田伊久子
15	前期	「科目試験とまとめ」	「科目試験」 科目試験に合格する	山田伊久子
成績評価方法		記述式・選択問題で90点。国家試験過去問題で10点。合計100点満点の試験。		
準備学習など		特になし		
留意事項		知らない、分からない単語が出てきたら調べ、説明ができるようにしておく。		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語聴覚障害概論Ⅱ（成人）	
担当者	小林 二成	
単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書	参考書 言語聴覚士テキスト第3版

授業概要と目的
<p>成人を対象とする、病院、介護保険施設での言語聴覚士の業務経験を有する常勤講師が、言語聴覚士が接する疾病、検査、評価、指導、援助の基本を講義し、言語聴覚士業務を理解する。</p> <p>そして、各論への座学と繋ぐ授業と位置付ける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「言語聴覚士について」① 一般目標 言語聴覚士の歴史や従事する医療・介護現場などの現状を知る。	「言語聴覚士について」① 到達目標 言語聴覚士の歴史や従事する医療・介護現場などの現状について理解する	小林 二成
2	前期	「言語聴覚士について」② 言語聴覚士の歴史や従事する医療・介護現場などの現状を知る。	「言語聴覚士について」② 言語聴覚士の歴史や従事する医療・介護現場などの現状について理解する	小林 二成
3	前期	「コミュニケーションについて」① 言語聴覚士が扱うことからもコミュニケーションについて理解する	「コミュニケーションについて」① 言語聴覚士が扱うコミュニケーションについて簡単に説明することが出来る	小林 二成
4	前期	「コミュニケーションについて」② 言語聴覚士が扱うコミュニケーションについてその障害も含め考え理解する	「コミュニケーションについて」② 言語聴覚士が扱うコミュニケーションについて、その重要性や障害について簡単に説明することが出来る	小林 二成
5	前期	「食べるについて」① 言語聴覚士が扱う食べるについてその障害も含め考え理解する	「食べるについて」① 言語聴覚士が扱う食べるについて、その重要性や障害について簡単に説明することが出来る	小林 二成

6	前期	「食べるについて」② 言語聴覚士が扱う食べるについて考え理解する	「食べるについて」② 言語聴覚士が扱う食べるについて簡単に説明することが出来る	小林 二成
7	前期	「失語症について」 失語症の病態や評価方法について理解する	「失語症について」 失語症の病態・評価方法について理解し、大まかに説明することが出来るようになる。	小林 二成
8	前期	「失語症のタイプ分類」 失語症のタイプとその特徴を理解する	「失語症のタイプ分類」 失語症のタイプ分類とそれぞれの特徴について大まかに説明することが出来るようになる	小林 二成
9	前期	「運動障害性構音障害について」 運動障害性構音障害の病態と評価方法について理解する。	「運動障害性構音障害について」 運動障害性構音障害の病態・評価方法について理解し、大まかに説明することが出来る。	小林 二成
10	前期	「運動障害性構音障害のタイプについて」 運動障害性構音障害のタイプとその特徴について理解する。	「運動障害性構音障害のタイプ分類について」 運動障害性構音障害のタイプとその特徴について理解する。	小林 二成
11	前期	「高次脳機能障害について」 高次脳機能障害の病態と評価方法について理解する	「高次脳機能障害について」 高次脳機能障害の病態・評価方法について理解し、大まかに説明することが出来る。	小林 二成
12	前期	「高次脳機能障害の種類」 代表的な高次脳機能障害の病態や評価方法について理解する	「高次脳機能障害の種類」 代表的な高次脳機能障害の病態について理解し、大まかに説明することが出来る。	小林 二成
13	前期	「嚥下障害について」 嚥下障害の病態や評価方法について理解する。	「嚥下障害について」 嚥下障害の病態・評価方法について理解し、大まかに説明することが出来る	小林 二成
14	前期	「嚥下障害のタイプについて」 嚥下障害のタイプとその特徴について理解する。	「嚥下障害のタイプについて」 嚥下障害のタイプとその特徴について理解し大まかに説明することが出来る	小林 二成
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて言語聴覚士の基礎知識を身につける。	「科目試験とまとめ」 科目試験に合格する。	小林 二成
成績評価方法		科目修了試験 100点満点 記述式と○×で行います。		

準備学習など	疑問点なく終了したいと考えています。多くの質疑応答をしたいと思います。
留意事項	



学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語聴覚障害診断学 I (小児)	
担当者	山田 伊久子	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 言語発達障害学 第3版 医学書院	参考書 言語聴覚士のための 言語発達障害学 第2版

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚障害の臨床で使われる主要な検査の概要と、言語発達障害児の評価の具体的な方法を示す。</p> <p>なお、言語聴覚士として、その経験を活かし講義を行う。</p> <p>授業目的</p> <p>適切な言語聴覚療法 (小児) が提供するために、言語聴覚障害の臨床で使われる主要な検査について理解し、言語聴覚障害児の評価・課題設定ができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「心理検査の概要」 良い心理検査とはどのようなものかを理解する 検査の選定法方法を知る。 言語聴覚療法の小児分野で使用される検査を知る	検査の信頼性・妥当性について説明することができる。 検査を選定する場合の注意点について説明することができる 言語聴覚療法の小児分野で使用される検査を測定目的ごとに列挙できる	山田伊久子
2	前期	「田中ビネー式知能検査V」 田中ビネー式知能検査の概要を理解し、採点、結果の処理ができるようになる	「田中ビネー式知能検査V」 検査の概要と特徴を述べることができるマニュアルを使用して採点ができる 結果から子どもの発達段階を説明できる	山田伊久子
3	前期	「WISC-IV知能検査の概要」 WISC-IV知能検査の概要を理解する	「WISC-IV知能検査」 検査の基礎理論・測定しているものを説明できる 検査の構成を説明できる 4つの指標・合成得点の意味を説明できる	山田伊久子

4	前期	「WISC-IV知能検査の実施・評価」 各下位検査の実施方法を理解する 採点、結果の処理方法を修得する	「WISCIV知能検査の実施・評価」 マニュアルを使用して各下位検査の実施ができる マニュアルを使用して採点・結果の処理ができる 結果から子どもの知能の発達の特徴を説明できる	山田伊久子
5	前期	「WISC-IV知能検査演習」	「WISC-IV知能検査演習」 実際に検査に触れ、気を付けるところを自覚する	山田伊久子
6	前期	「日本版 KABC II」 KABC II の概要を理解し、各下位検査の実施方法・採点・結果の処理を修得する	「日本版 KABC II」 検査の基礎理論、測定しているものを説明できる。 習得尺度・認知尺度の説明ができる マニュアルを使用して下位検査の実施ができる 結果から子どもの得意不得意を説明できる	山田伊久子
7	前期	DN-CAS 認知評価システム」 DN-CAS の概要を理解し、各下位検査の実施方法・採点・結果の処理を修得する	「DA-CAS 認知評価システム」 認知処理過程の4つの尺度について説明ができる マニュアルを使用して下位検査の実施ができる 結果から子どもの認知の特性を説明できる	山田伊久子
8	前期	「検査演習」 発達・知能分野の検査を実際使用する	検査演習」 発達・知能分野の検査を実施する	山田伊久子
9	前期	「発達検査・新版 K 式発達検査の実施」 下位検査の概要・採点基準方法を理解し、結果の読み取ができるようになる	「新版 K 式発達検査」 下位検査の構成を説明できる マニュアルを使用して結果の採点ができる 結果から子どもの発達の様子を説明できる	富田 彰
10	前期	「発達検査・新版 K 式発達検査の実施」 下位検査の概要・採点基準方法を理解し、結果の読み取ができるようになる	「新版 K 式発達検査」 下位検査の構成を説明できる マニュアルを使用して結果の採点ができる 結果から子どもの発達の様子を説明できる	富田 彰

11	前期	「検査演習」 言語分野の検査を実際に使用する	「検査演習」 言語分野の検査を実施する	山田伊久子
12	前期	「検査一覧表の作成」 学んだ検査を見直す	「検査一覧表の作成」 検査の分類と特徴を一覧表にしてまとめる	山田伊久子
13	前期	「アセスメント」 アセスメントの方法を理解する	「アセスメント」 アセスメントの過程を説明できる 症例をみながら アセスメントをまとめることができる	山田伊久子
14	前期	「アセスメントと課題設定」 アセスメント結果からの課題設定について考察する	症例のアセスメントを踏まえ、子どもの段階に応じた課題設定ができる	山田伊久子
15	前期	「まとめと科目試験」 科目試験とまとめで小児の言語聴覚療法の全体の流れを理解する。	「講義の振り返りと確認（科目試験）」 小児の言語聴覚療法の評価のポイントを何も見ずに具体的に述べるができる。	山田伊久子
成績評価方法		特記述式・選択問題で 90 点。国家試験過去問題で 10 点。計 100 点満点の試験を行う		
準備学習など		検査の名前を聞いて、どんな検査かイメージできるようにするのが良い。		
留意事項		検査、検査道具を時間のある時に実際に触って、やってみる自主学习を勧める。		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	失語症 I (基礎理論・訓練理論)	
担当者	辰巳 寛	
単位数 (時間数)	2 単位 (40 時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学 失語症 藤田 郁代 医学書院	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚士として失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ、一般の臨床現場で行われている機能評価、治療プログラムの立案、およびリハビリテーションの実際まで指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床失語症学に関する基本的知識を習得し、臨床現場で必要な評価法と鑑別法、および治療法についての基礎を身につける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「脳と言語とコミュニケーション」 大脳と言語機能との関連について理解する。	「脳の局在と言語機能」 大脳半球の機能局在を理解し、脳と言語との関係性について説明できる。	辰巳 寛
2	通年	「失語症の定義」 失語症について理解する。	「失語症の理解」 失語症とは何か、簡単に説明できる。	辰巳 寛
3	通年	「失語の歴史」 臨床失語症の歴史を理解し、現在の失語学の問題を理解する。	「失語の歴史」 失語症の古典論を説明できる。	辰巳 寛
4	通年	「失語症の言語症状」 失語症による言語症状の数々について理解する。	「失語症の言語症状」 失語症によって出現する様々な言語症状について説明できる。	辰巳 寛

5	通年	「失語症タイプ分類1」 古典論的失語分類について理解する。皮質性失語編	「失語症タイプ分類」 Broca および Wernicke 以来の古典論的失語分類について説明できる。	辰巳 寛
6	通年	「失語症タイプ分類2」 古典論的失語分類について理解する。超皮質性失語編	「失語症タイプ分類」 Broca および Wernicke 以来の古典論的失語分類について説明できる。	辰巳 寛
7	通年	「失語症の評価1」 失語症の客観的定量的検査 (SLTA など) について理解する。	「失語症の評価」 SLTA の内容および手技について簡単に説明できる。	辰巳 寛
8	通年	「失語症の評価2」 失語症の掘り下げ検査 (Token Test など) について理解する。	「失語症の評価」 失語症の掘り下げ検査の数々について、その内容および手技について簡単に説明できる。	辰巳 寛
9	通年	「失語症の治療1」 失語症のリハビリテーションの基礎について理解する。	「失語症の治療」 一般的な失語リハビリテーションの手法について説明できる。	辰巳 寛
10	通年	「失語症の治療2」 失語症のリハビリテーションの応用的活用について理解する。	「失語症の治療」 失語リハビリテーションの特異的手法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
11	通年	「失語症の訓練計画」 失語症の訓練プログラムの構成について理解する。	「失語症の訓練計画」 失語リハビリテーションのプログラムを立案することができる。	辰巳 寛
12	通年	「失語症における要素症状のアプローチ」 発語失行、錯語症など基本的な要素的失語症状に対するアプローチについて理解する。	「失語症における要素症状のアプローチ」 発語失行、錯語症など基本的な要素的失語症状に対するアプローチについて、簡単に説明できる。	辰巳 寛
13	通年	「急性期の失語症治療」 急性期病院における失語症治療について理解する。	「急性期の言語治療」 急性期病院における失語症治療について、その注意点などについて簡単に説明できる。	辰巳 寛
14	通年	「回復期の失語症治療」 回復期リハビリテーション病棟における失語症治療について理解する。	「回復期の失語症治療」 回復期リハビリテーション病棟における失語症治療について、簡単に説明できる。	辰巳 寛

15	通年	「維持期の失語症治療」 在宅療養および訪問リハビリテーションにおける失語症治療について理解する。	「維持期の失語症治療」 在宅療養および訪問リハビリテーションにおける失語症治療について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
16	通年	「失語症リハビリテーションの実際」 一般的病院における失語症治療の実際を DVD にて供覧し、リハビリテーションの方法について理解する。	「失語症リハビリテーションの実際」 DVD からの情報を踏まえて、実際のなリハビリテーションの方法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
17	通年	「失語症の検査報告書の書き方」 各種検査所見の取り方とまとめ方、報告書作成の手順について理解する。	「失語症の検査報告書の書き方」 失語症の検査を実施後に提出する報告書を作成できる。	辰巳 寛
18	通年	「失語症者の社会復帰援助」 失語症に対する障害福祉制度を理解し、適切な社会復帰支援について理解する。	「失語症者の社会復帰援助」 失語症に対する障害福祉制度と社会復帰支援法について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
19	通年	「コミュニケーション障害の支援のあり方」 失語症を代表とするコミュニケーションの困難な方に対する包括的支援について理解する。	「コミュニケーション障害の支援のあり方」 包括的コミュニケーション支援の実際について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
20	通年	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳 寛
成績評価方法	学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です。			
準備学習など	言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です。臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので、積極的に取り組んで下さい。講義終了前後に質問時間を設けますので、積極的に質問してください。			
留意事項	特になし			

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	失語症Ⅱ（検査）	
担当者	百々 加奈子	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準失語症検査マニュアル 新興医学出版	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>この科目ではスクリーニング検査をはじめ、標準失語症検査を中心に失語症の検査等について学ぶ。 なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う。</p> <p>授業目的</p> <p>この科目ではスクリーニング検査について理解し、作成できるようになる。 また、失語症の言語症状を把握するために必要な検査の実施方法を学び、操作できるようにする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「総合スクリーニング検査」 HDS-R、MMSE、STAD について紹介し理解する。また、総合スクリーニング検査作成の手順を理解する。	「総合スクリーニング検査」 HDS-R、MMSE、STAD について説明でき、総合スクリーニング検査作成の手順を説明できる。	百々加奈子
2	後期	「総合スクリーニング検査演習」 HDS-R、MMSE の具体的実施方法を理解し体験する。	「総合スクリーニング検査演習」 HDS-R、MMSE の具体的実施方法を説明でき、実際に実施することができる。	百々加奈子
3	後期	「標準失語症検査 (SLTA) について」 標準失語症検査 (SLTA) の具体的実施方法を理解する。	「標準失語症検査 (SLTA) について」 標準失語症検査 (SLTA) の具体的実施方法を説明できる。	百々加奈子
4	後期	「標準失語症検査 (SLTA) について」 標準失語症検査 (SLTA) の具体的実施方法を理解する。	「標準失語症検査 (SLTA) について」 標準失語症検査 (SLTA) の具体的実施方法を説明できる。	百々加奈子

5	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「聞く」の具体的実施方法を体験する。	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「聞く」の項目を実施できる。	百々加奈子
6	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「話す」の具体的実施方法を体験する。	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「話す」の項目を実施できる。	百々加奈子
7	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「読む」の具体的実施方法を体験する。	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「読む」の項目を実施できる。	百々加奈子
8	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「書く」の具体的実施方法を体験する。	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 「書く」の項目を実施できる。	百々加奈子
9	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 全ての検査項目で検査者－被検査者に分かれ実演できる。	「標準失語症検査 (SLTA) 演習」 全ての検査項目で検査者－被検査者に分かれ正確に実演できる。	百々加奈子
10	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施する。	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施することで、問題点を確認することができる。	百々加奈子
11	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施する。	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施することで、問題点を確認することができる。	百々加奈子
12	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施する。	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施することで、問題点を確認することができる。	百々加奈子
13	後期	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施する。	「標準失語症検査 (SLTA) 臨床技能試験」 全ての検査項目で臨床技能検査を実施することで、問題点を確認することができる。	百々加奈子
14	後期	「その他の失語症検査、関連する検査」 WAB、SALA、失語症語彙検査、SLTA 補助テスト、失語症構文検査、重度失語症検査、抽象語理解検査等について理解する。	「その他の失語症検査、関連する検査」 WAB、SALA、失語症語彙検査、SLTA 補助テスト、失語症構文検査、重度失語症検査、抽象語理解検査等について説明できる。	百々加奈子



15	後期	「その他の失語症検査、関連する検査」 WAB、SALA、失語症語彙検査、SLTA 補助テスト、失語症構文検査、重度失語症検査、抽象語理解検査等について理解する。	「その他の失語症検査、関連する検査」 WAB、SALA、失語症語彙検査、SLTA 補助テスト、失語症構文検査、重度失語症検査、抽象語理解検査等について説明できる。	百々加奈子
成績評価方法		臨床技能試験は 40 点満点で誤りに対して減点法にて得点する。スクリーニング検査作成課題 2 題提出 60 点。合計 100 点		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1 学年
科目名	高次脳機能障害 I (基礎理論・検査)
担当者	西脇 克浩
単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 ・標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第2版 藤田郁代 医学書院 参考書 ・高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版 ・神経心理学入門 山鳥 重 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>・高次脳機能障害は、大きく失語、失行、失認、記憶障害、遂行機能障害、注意障害、社会的行動障害などに区分される。教科書に沿いながら高次脳機能障害およびそのリハビリテーションを概説する。また臨床上での体験なども交え、具体的に障害像をイメージできるよう伝える。</p> <p>目的</p> <p>・GIO (一般目標)：高次脳機能障害における障害の概念・症候・病巣部位を正確に理解すること</p> <p>・SBOs (行動目標)：言語・行為・認知・記憶・注意・実行・情動の高次神経情報の脳内伝達経路を学び、失語・失行・失認・記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害の症候と病巣との関連性を結びつける。自分なりの言葉で障害像を説明できるようになること</p> <p>なお言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「総論 高次脳機能障害」 高次脳機能障害とは何かを理解する。	「高次脳機能障害とは」 高次脳機能障害とは何か、講義で学ぶ症状の概念や種類を説明できる	西脇 克浩
2	通年	「意識障害、注意障害」 意識障害、注意障害について神経心理学的側面から理解する。	「意識障害・注意障害とは」 意識障害・注意障害とは何か、神経心理学的評価及ぼす影響について説明できる。	西脇 克浩
3	通年	「記憶障害」 記憶障害の概念、責任病巣について理解する。	「記憶障害とは」 記憶障害の概念、責任病巣について自分の言葉で説明できる	西脇 克浩
4	通年	「記憶障害」 記憶障害のメカニズム、障害	「記憶障害とは」 記憶障害のメカニズムについて、	西脇 克浩

		像について理解する	自分の言葉で具体的に説明できる	
5	通年	「失行」 失行の概念、メカニズム、症状、責任病巣について理解する。	「失行とは」 失行の概念やメカニズム等について自分の言葉で説明できる	西脇 克浩
6	通年	「失認」 失認の概念、メカニズムについて理解する。	「失認とは」 失認の概念、メカニズムについて、何も見ずに具体的に説明できる	西脇 克浩
7	通年	「失認」 失認の症状、責任病巣について理解する	「失認とは」 失認の症状、責任病巣について、自分の言葉で説明できる	西脇 克浩
8	通年	「前頭葉症状・遂行機能」 前頭葉症状、遂行機能障害について、理解する。	「前頭葉症状・遂行機能とは」 前頭葉症状、遂行機能障害について、具体的に説明できる	西脇 克浩
9	通年	「右半球損傷」 右半球損傷について、神経心理学的側面から理解する。	「右半球損傷とは」 特に言語聴覚士のリハ領域に関連する症状について説明できる。	西脇 克浩
10	通年	「認知症」 認知症について、神経心理学的側面からタイプ分類について理解する。	「認知症とは」 認知症の各タイプについて何も見ずに説明できる。	西脇 克浩
11	通年	「認知症」 認知症について、神経心理学的側面から評価・診断について理解する。	「認知症とは」 認知症の各タイプの評価・診断について何も見ずに説明できる。	西脇 克浩
12	通年	「頭部外傷」 頭部外傷による高次脳機能障害について理解する。	「頭部外傷について」 頭部外傷による症状について何も見ずに説明できる。	西脇 克浩
13	通年	「脳梁離断症状」 脳梁離断症状について理解する。	「脳梁離断症状について」 脳梁離断症状について机上検査・特殊装置を用いた検査結果について説明することができる。	西脇 克浩
14	通年	「神経心理学検査」 神経心理学的検査全般について概要を理解する。	「神経心理学検査について」 一般的な神経心理学的検査名とその概要について説明することができる。	西脇 克浩

15	通年	「科目試験とまとめ」 学科試験とまとめを通じて 高次脳機能障害の概要を理 解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができ る。	西脇 克浩
成績評価方法		学科試験（記述式と選択式の混合）にて100点満点で評価する。 別途小テストの実施も考えています		
準備学習など		高次脳機能障害者や家族介護者等が書いた体験記を読んでおくと良い。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1学年	
科目名	言語発達障害 I (概論・MR・SLI・S-S法)	
担当者	大内田 潤子	
単位数 (時間数)	2単位 (60時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 国リハ式 S-S 法言語発達遅滞検査マニュアル 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 医学書院	参考書 なし

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>言語聴覚士として臨床経験のある教員が言語発達障害児の言語臨床の経験を活かし、子どもの発達段階や特性に即した評価や訓練プログラム立案から訓練まで指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>小児の言語発達障害について十分理解し、これに基づいて評価、訓練目標、訓練プログラム立案、訓練 (指導) ができるようになる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「言語発達障害とは」 言語発達障害とは何かを理解する。 疾病分類を理解する。	「言語発達障害の基本」 言語の3つの構成要素が説明できる。 言語発達障害の特徴と疾病分類が、簡単に説明できる。	大内田 潤子
2	通年	「小児の言語発達」 言語発達を支える発達の基礎と 言語・コミュニケーションをどの ように獲得していくかの過程と 発達の様子を理解する。	「正常言語発達」 言語獲得に必要な発達の基盤を知る。 言語・コミュニケーションの発達の順序と 発達の様子を説明できる。	大内田 潤子
3	通年	「小児の言語臨床の流れ」 小児の言語聴覚士の仕事の目的 と内容を理解する。	「仕事の手順 (流れ) の基本」 仕事の手順を知り情報の収集・情報の整理・ 評価・ゴール設定・訓練プログラムの立案・ 訓練プログラムの実行・再評価の目的と内容を説明できる。	大内田 潤子

4	通年	「評価・収集する情報の種類と内容」 評価に必要な情報は何かを理解する。	「直接情報と間接情報」 主訴・生育歴・検査など評価に必要な情報は何か説明できる。 どんな評価・検査法があるかを知る。	大内田 潤子
5	通年	「評価のまとめ方」 評価の資料から評価の整理の仕方を理解する。	「評価の整理・まとめ」 評価にあたって、観察の視点、モダリティ別の整理の仕方、診断、検査の選択などの整理の方法を学ぶ。	大内田 潤子
6	通年	「知的発達障害の症状と支援」 知的発達障害児の診断基準、特徴や原因、言語の特徴、指導方法を理解する。	「知的発達障害児の症状と支援」 診断基準、特徴、原因、言語の特徴、指導方法を説明できる。 ダウン症候群の特徴や原因、言語の特徴を説明できる。	大内田 潤子
7	通年	「特異的言語発達障害の症状と支援」 特異的発達障害の診断基準、特徴や原因、言語の特徴、指導方法を理解する。	「特異的言語発達障害の症状と支援」 診断基準、特徴、原因、言語の特徴、評価指導方法を説明できる。	大内田 潤子
8	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「国リハ式<S・S法>言語発達遅滞検査」 理論的枠組み (1) 理論的枠組みを知り説明できる。 記号形式—指示内容関係の段階 1 から段階 5 まで発達に即した説明ができる。	大内田 潤子
9	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「国リハ式<S・S法>言語発達遅滞検査」 理論的枠組み (2) 症状分類 (A 群・T 群・B 群・C 群)・サブタイプが説明できる。 基礎的プロセスが説明できる。 コミュニケーションの I 群・II 群が説明できる。	大内田 潤子
10	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「国リハ式<S・S法>言語発達遅滞検査」 一般手続きについて 検査の実施順序や教示方法、呈示方法、検査道具の扱い方などを知り、検査が施行できる。	大内田 潤子
11	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「国リハ式<S・S法>言語発達遅滞検査」 記録方法・集計方法について 検査時のフォームの記録の仕方や結果の集計 (サマリー2) ができる。	大内田 潤子

12	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査」 検査結果と評価のまとめ方について（サマリー1）の記入をしたうえで、検査結果のまとめ方などを記述できる。	大内田 潤子
13	通年	「症状分類別の評価方法と訓練立案の為の働きかけのポイント」 臨床現場において評価から訓練立案に必要な技術を身につける。	「S-S法の症状分類の結果から、A群・B群・T群・C群別の評価の視点と内容が説明できる。各群の訓練ポイントが説明できる。	大内田 潤子
14	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「LCスケール」一般手続きについて 検査の実施順序や教示方法、呈示方法、検査道具の扱い方などを知り、検査が施行できる。	大内田 潤子
15	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「LCスケール」記録方法・集計方法について 検査時のフォームの記録の仕方や結果の集計ができる。	大内田 潤子
16	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「LCSA」一般手続きについて 検査の実施順序や教示方法、呈示方法、検査道具の扱い方などを知り、検査が施行できる。	大内田 潤子
17	通年	「言語検査について」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「LCSA」記録方法・集計方法について 検査時のフォームの記録の仕方や結果の集計ができる。	大内田 潤子
18	通年	「言語発達遅滞児の言語訓練の働きかけの原理」 訓練・指導（働きかけ）の一般的原則と目的を理解する。	「言語発達遅滞児の言語訓練の働きかけの原理と訓練プログラムの立案」 訓練・指導（働きかけ）の一般的原則と目的を理解する。	大内田 潤子
19	通年	「訓練について」(1) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「前言語期の言語訓練について」(1) 理解も表出もできない前言語期の子どもの訓練目標と言語訓練プログラムそして訓練法を身につける。	大内田 潤子
20	通年	「訓練について」(2) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「単語獲得期の言語訓練について」(2) 単語獲得期の子どもの訓練目標と言語訓練の方法を身につける。	大内田 潤子
21	通年	「訓練について」(3) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「前期構文獲得期の言語訓練について」(3) 前期構文獲得期の子どもの訓練目標と言語	大内田 潤子

			訓練の方法を身につける。	
22	通年	「訓練について」(4) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「中期構文獲得期の言語訓練について」(4) 中期構文獲得期の子どもの訓練目標と言語訓練の方法を身につける。	大内田 潤子
23	通年	「訓練について」(5) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「文字言語学習などの訓練について」(5) 文字言語学習・数・聴覚的記憶力などの訓練の方法を身につける。	大内田 潤子
24	通年	「訓練について」(6) 訓練にはどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「会話能力(質問-応答関係)の訓練について」 会話能力(質問-応答関係)の検査法ができるようになる。会話能力の年齢別の発達的变化と内容を説明できる。 会話能力の訓練法を身につける。	大内田 潤子
25	通年	「訓練について」(7) 拡大・代替コミュニケーションにどのようなものがあるかを知り実施できるようになる。	「拡大・代替コミュニケーション・AAC」 「マカトン法について」 AACとは何かを知り、AACの支援のためのさまざまな方法を知る。 AACの1つである「マカトン法」の技法を説明できる。	大内田 潤子
26	通年	「訓練について」(8) 臨床現場において必要な技術を身につける。	「症状と支援 インリアル・アプローチ」 語用論的アプローチとしてインリアルと言語心理学的技法を説明できる。	大内田 潤子
27	通年	「家庭支援(保護者支援)・言語環境支援」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「家庭支援・(保護者との連携)」 STによる家庭支援の目的と直接指導と環境調整などについて説明できる。	大内田 潤子
28	通年	「症例報告・まとめについて」 臨床現場において必要な技術を身につける。	「症例報告・まとめ」 症例報告の書き方の基本を学ぶ。	大内田 潤子
29	通年	「言語発達障害の療育・支援」 乳幼児期における支援や学童期における支援の体制や現状を知り、小児の言語聴覚士の役割など	「療育・発達支援体制について」 障害児を支える支援体制を医療だけでなく福祉・教育面でも考えることができ、専門職として連携の仕方やSTの将来像などを	大内田 潤子



		を知る。	考えることができる。	
30	通年	「学科試験」 試験を通して、自身の理解度を 確認し、今後の学習方針を定める	「学科試験」 規程の点数をクリアする。テストの振り返 りを受講し、今後の学習方針を立てる	大内田 潤子
成績評価方法		科目試験にて 100 点満点で選択式問題、記述問題、穴埋め問題で構成する。記述問題は誤字脱 字、必要な語が含まれない場合、ポイントを記述できていない場合に減点する方式で採点。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1学年
科目名	言語発達障害Ⅱ（各論・評価・実習）
担当者	山田 伊久子 大内田 潤子
単位数（時間数）	2単位 （70時間）
学習方法	演習
教科書・参考書	なし

授業概要と目的
<p>授業概要：発達の遅れのある子どもたちの評価・指導を、症例を通して指導する</p> <p>A・Bのグループに分かれて演習を行う</p> <p>なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし演習指導を行う</p> <p>授業目的：子どもの評価方法・指導計画の立案・指導方法を修得する</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「指導実施上の注意」 子どもの指導の一般的な注意点を理解する	「指導実施上の注意」 指導にあたって注意すべき点を列挙できる	山田伊久子 大内田潤子
2	通年	「指導準備」 対象児の概要と評価指導のおおまかな流れを理解する	「指導準備」 指導対象児の様子を知る 演習における流れと自分の役割が説明できる	山田伊久子 大内田潤子
3	通年	「評価」 検査結果や指導経過をみて、対象児の評価の仕方を修得する	「評価作成」 対象児の評価のまとめを述べるができる	山田伊久子 大内田潤子
4	通年	「目標の設定、指導計画・課題の立案定・指導案の作成」 結果を踏まえて、目標と指導課題を設定し、指導案を作成の仕方を修得する	「目標の設定、指導計画・課題の立案」 評価をふまえた指導目標の設定ができる 指導目標をふまえた計画の立案ができる 指導目標をふまえた課題の立案ができる 指導案を作成することができる	山田伊久子 大内田潤子
5	通年	「ロールプレイ A-1」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ A-1」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべるができる	山田伊久子 大内田潤子

6	通年	「指導演習 A-1」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-1・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
7	通年	「カンファレンス A-1」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-1」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-1」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-1」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	
8	通年	「指導演習 B-1」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-1・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
9	通年	「ロールプレイ A-2」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ A-2」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	山田伊久子 大内田潤子
		「カンファレンス B-1」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス B-1」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	
10	通年	「指導演習 A-2」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-2・観察」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	山田伊久子 大内田潤子
11	通年	「カンファレンス A-2」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-2」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-2」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-2」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	

12	通年	「指導演習 B-2」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-2・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
13	通年	「ロールプレイ A-3」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ A-3」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	山田伊久子 大内田潤子
		「カンファレンス B-2」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス B-2」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	
14	通年	「指導演習 A-3」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	指導演習 A-3・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
15	通年	「カンファレンス A-3」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-3」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-3」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-3」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	
16	通年	「指導演習 B-3」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	指導演習 B-3・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
17	通年	「指導経過の検討」 前半3回の指導内容を見直し、指導内容の是非を理解する	「指導内容の検討」 3回分の指導内容の良い点、改善点を述べる ことができる	山田伊久子 大内田潤子
18	通年	「指導の方針の見直し」 指導内容の見直しに沿って、改善点などを理解する	「指導方針の見直し」 指導内容についてまとめることができる 今後の方針について説明できる	山田伊久子 大内田潤子

19	通年	「ロールプレイ A-4」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する 「症例報告書の作成準備 A」 症例報告書に必要な情報を知る	「ロールプレイ A-4」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる 「症例報告書の一部作成 A」 症例報告書の症例の概要部分を作成する	山田伊久子 大内田潤子
20	通年	「指導演習 A-4」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-4・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
21	通年	「カンファレンス A-4」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-4」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-4」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-4」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	
22	通年	「指導演習 B-4」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-4・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
23	通年	「ロールプレイ A-5」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ A-5」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	山田伊久子 大内田潤子
		「カンファレンス B-4」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス B-4」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	
24	通年	「指導演習 A-5」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 A-5・観察」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントをのべることができる	山田伊久子 大内田潤子

25	後期	「カンファレンス A-5」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-5」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-5」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-5」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントのをべることができる	
26	後期	「指導演習 B-5」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	「指導演習 B-5・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
27	後期	「ロールプレイ A-6」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ A-6」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントのをべることができる	山田伊久子 大内田潤子
		「カンファレンス B-5」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス B-5」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	
28	後期	「指導演習 A-6」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	指導演習 A-6・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子
29	後期	「カンファレンス A-6」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス A-6」 前回の指導の問題点をのべることができる 指導案を完成することができる	山田伊久子 大内田潤子
		「ロールプレイ B-6」 実際の指導内容のロールプレイを行う 指導のポイントを理解する	「ロールプレイ B-6」 指導の内容に沿ってロールプレイができる 指導予定課題のポイントのをべることができる	
30	後期	「指導演習 B-6」 実際に指導を行う ポイントを踏まえた観察の仕方を理解する	指導演習 B-6・観察」 対象児に指導案に沿った指導ができる 考察に結びつく結果・反応を観察記録にまとめることができる	山田伊久子 大内田潤子

31	後期	「症例報告書作成」 全指導内容を検討し、症例の全体像を理解し、症例報告書を作成の仕方を知る	「症例報告書作成」 対象児の症例報告書の作成ができる	山田伊久子 大内田潤子
		「カンファレンス B-6」 指導内容を振り返り、反省点と改善点を理解する 指導内容結果のまとめ方を修得する	「カンファレンス B-6」 前回の指導の問題点をのべることのできる 指導案を完成することができる	
32	後期	「症例報告書作成」 全指導内容を検討し、症例の全体像を理解し、症例報告書を作成の仕方を知る	「症例報告書作成」 対象児の症例報告書の作成ができる	山田伊久子 大内田潤子
33	後期	「症例報告書作成」 全指導内容を検討し、症例の全体像を理解し、症例報告書を作成の仕方を知る	「症例報告書作成」 対象児の症例報告書の作成ができる	山田伊久子 大内田潤子
34	後期	「症例報告書作成」 全指導内容を検討し、症例の全体像を理解し、症例報告書を作成の仕方を知る	「症例報告書作成」 対象児の症例報告書の作成ができる	
35	後期	「症例報告書会」 纏めた症例報告をもとに発表する	「症例報告書作成」 症例発表ができる	山田伊久子 大内田潤子
成績評価方法		症例報告書 20点 指導実施 20点 指導案提出 10×2点 観察記録 10×4点 合計 100点 で提出期限を過ぎたものに減点していく方法です		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	言語発達障害Ⅲ (PDD・LD)	
担当者	大内田 潤子	
単位数 (時間数)	1 単位 (20 時間)	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 医学書院	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>発達障害の各障害像や診断基準、言語聴覚士としての各障害に対するアプローチ法について示す。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p> <p>授業目的</p> <p>言語聴覚士として発達障害の子どもへのアプローチ方法を身につけるため、各障害像、診断基準を理解し、言語聴覚士が個々の特性を踏まえたアプローチの基本を理解することができる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「発達障害とはなにか」 発達障害の概要を理解する 発達障害をとりまく国内外の現状と課題を理解する。	「発達障害とはなにか」 発達障害の定義を述べることができる 発達障害に含まれる障害を列挙することができる 発達障害の現況を踏まえて、社会における課題を述べることができる	大内田潤子
2	通年	「自閉症スペクトラムについて」 1. 自閉症スペクトラムの概要と診断・病態を理解する	「自閉症スペクトラムの概要」 Wing の3つ組の障害を説明することができる 自閉症スペクトラムの原因仮説・病態を列挙できる	大内田潤子



3	通年	「自閉症スペクトラムについて」 2. 自閉症スペクトラムの診断とアプローチ（支援）を理解する	「自閉症スペクトラムの診断・アプローチ」 自閉症スペクトラムの診断方法を説明 できる 自閉症スペクトラムの障害へのアプローチ（支援）を述べることができる	大内田潤子
4	通年	「注意欠如・多動性障害について」 1. 注意欠如・多動性障害の概要と診断・病態を理解する	「注意欠如・多動性障害の概要」 注意欠如・多動性障害の定義を述べる ことができる 注意欠如・多動性障害の原因仮説・行動特徴を列挙できる	大内田潤子
5	通年	「注意欠如・多動性障害について」 2. 注意欠如・多動性障害の診断とアプローチを理解する。	「注意・欠如多動性障害の診断・アプローチ」 注意欠如・多動性障害の診断方法を説明 できる 注意欠如・多動性障害へのアプローチ（支援）を述べる ことができる	大内田潤子
6	通年	「学習障害について」 1. 学習障害の概要と診断・病態を理解する	「学習障害の概要」 学習障害の各定義を述べる ことができる 学習障害の病理の仮説を列挙 できる	大内田潤子
7	通年	「学習障害について」 2. 学習障害の診断とアプローチを理解する。	「学習障害の診断・アプローチ」 学習障害の診断方法を説明 できる 学習障害へのアプローチ（支援）を 述べる ことができる	大内田潤子
8	通年	「発達性協調運動障害について」 発達性協調運動障害の概要と 診断・病態を理解する	「発達性協調運動障害の概要」 発達性協調運動障害の定義を 述べる ことができる	大内田潤子

9	通年	「発達障害児支援における言語聴覚士の役割」 発達障害の言語の問題と 言語聴覚士の役割を理解する	発達障害の言語の問題を列挙できる 発達障害児支援における言語聴覚士の 役割を述べるができる	大内田潤子
10	通年	まとめと科目試験 まとめと科目試験を通して 講義全般の要点を理解する	まとめと科目試験 講義全般の要点を再確認し、述べる ことができる	大内田潤子
成績評価方法		科目試験にて 100 点満点で選択式問題、正誤問題、記述問題で構成する。記述問題は誤字脱字、必要な語が含まれない場合、ポイントを記述できていない場合に減点する方式で採点する。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	言語発達障害学Ⅳ (CP・重心)	
担当者	中島 雅史	
単位数(時間数)	1単位(30時間)	
学習方法	講義・演習(COVID19の感染拡大の状況によっては演習を講義に置き換えることがあります)	
教科書・参考書	アドバンスシリーズ/コミュニケーション障害の臨床 第3巻「脳性麻痺」; 日本聴能言語士協会講習会実行委員会・編集/定価 3,780 円(税込)	

授業概要と目的	
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>脳性麻痺児に対する言語臨床の経験があるものが、非常勤講師として、その経験を活かし、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 臨床現場で必要とされる脳性麻痺臨床の基礎知識(定義、発生機序、症状分類と麻痺によるタイプ分類、合併症などについて)</li> <li>② 臨床現場で必要とされる粗大運動発達や微細運動発達とその障害、それらに伴う言語・コミュニケーション障害の発生機序、症状、評価の仕方に関して</li> <li>③ 臨床現場で行われている pre-speech approach という視点からの機能評価と家族とともに行う乳幼児期からの指導の進め方に関して</li> <li>④ 臨床現場で行われている言語・コミュニケーション機能の評価と指導を AAC Approach という視点から解説する。なお、pre-speech approach については演習を通して解説する。</li> </ol> <p>&lt;授業目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 脳性麻痺に関する基礎知識について、その大枠を理解する。</li> <li>② 脳性麻痺児とその家族が抱える困り感について、その大枠を理解する。</li> <li>③ 脳性麻痺児が抱える摂食・嚥下機能および言語・コミュニケーション発達の特徴とその障害像について、その大枠を理解する。</li> <li>④ 脳性麻痺児に対する摂食・嚥下リハビリテーション、言語・コミュニケーション支援の方向性および進め方について、適切な判断を持って遂行できるようになる。</li> </ol>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「脳性麻痺とは 1」 障害の歴史と定義を理解する。 脳性麻痺の原因と発生率・経年的変化について理解する。	「脳性まひについての基礎知識1」 脳性麻痺とは何か、発生の原因とその経年的変化、最近の脳性麻痺の特徴について、その概要を説明できる。	中島 雅史
2	通年	「脳性麻痺とは 2」 脳性麻痺の分類と症状、重症度及び合併症の多様性を理解する。重症心身障害の状態像を理解する。	「脳性まひについての基礎知識2」 脳性麻痺の分類とタイプ別症状、さまざまな合併症、加えて重症心身障害について、その大枠を説明できる。	中島 雅史

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
3	通年	「脳性麻痺とは 3」 脳性麻痺のまひの型を理解した上で、脳性麻痺のタイプの違いを分類別の学び直し理解する。 「正常運動発達の基礎」 正常運動発達の基礎として、反射の正常と異常を学び、理解する。	「脳性麻痺とは 3」 脳性麻痺のまひの型を、重症度を含め、表記し解説できる。症状タイプ分類と抱き合わせで複合的に説明できる。 「正常運動発達の基礎」 中枢神経の発達の過程で表面化する反射の正常と異常、チェックの目的を説明できる。	中島 雅史
4	通年	「正常な粗大運動発達」 粗大運動発達の法則とは何か、それを支える反射の意味を知ること、粗大運動発達と言語発達との密接な関連性を理解する。	「粗大運動発達の法則と正常発達」 粗大運動発達の法則を知ることは脳性麻痺児への支援にとって重要であること、粗大運動発達の進展がことばの獲得や社会性の発達に大きく貢献していることを、反射の営みと推移から説明できる。	中島 雅史
5	通年	「正常な微細運動発達」 微細運動発達の法則とは何か、特に目と手／手と口の協応運動の発達が、言語発達にいかに関与しているのかについて理解する。 「呼吸のメカニズムと障害」 脳性麻痺における呼吸運動の特性と支援技法を理解する。	「微細運動発達の法則と正常発達」 微細運動発達の法則を知ることは脳性麻痺児への支援にとって重要であること、協応運動など巧緻性の発達が言語発達と密接に関係していることを説明できる。「正常な呼吸運動と脳性麻痺呼吸」 呼吸と胸郭運動の関係をj知ること、脳性麻痺特有の問題と支援のポイントを説明できる。	中島 雅史
6	通年	「摂食・咀嚼嚥下機能の発達」 哺乳を可能にする反射、離乳食開始の条件とは何か、咀嚼機能の発達過程を理解する。	「摂食・咀嚼嚥下機能の発達」 哺乳を可能にする反射、離乳食開始の条件とは何か、また咀嚼機能の発達過程をステージ別に説明することができる。	中島 雅史
7	通年	「Per-speech Approach 1」 Pre-speech の目的とは何か、評価のポイント、支援の技法について理解する。	「Per-speech Approach 1」 Pre-speech の目的、そのための評価のポイント、支援技法のポイントについて説明できる。	中島 雅史
8	通年	「Pre-speech Approach 2」 評価の仕方、支援のポイントについて演習を通して理解する。	「Per-speech Approach 2」 評価の仕方、支援技法のポイントを、選別した演習項目について実施できる。	中島 雅史
9	通年	「Pre-speech Approach 3」 演習を通してタイプ別支援の特徴を理解する。	「Per-speech Approach 3」 タイプにより異なる支援の進め方を、その特徴の違いから説明できる。	中島 雅史

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
10	通年	「脳性麻痺言語の発達的特徴」 脳性麻痺特有の言語・コミュニケーション発達の特徴を理解する。	「脳性麻痺言語の発達的特徴」 脳性麻痺特有の言語・コミュニケーション発達の特徴について説明できる。	中島 雅史
11	通年	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を理解する。	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方(支援者の意図)を読み解くことができる。	中島 雅史
12	通年	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を理解する。	「言語・コミュニケーション支援」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を読み解くことができる。	中島 雅史
13	通年	「脳性麻痺言語治療の歴史」 我が国の脳性麻痺児への言語治療の歴史を、論文をもとに理解する。 「AAC approach とは」 生活と生きがい、コミュニケーションを支え促通する AAC の意義と技法について理解する。	「脳性麻痺言語治療の歴史」 我が国の脳性麻痺児への言語治療の歴史を、論文をもとに説明することができる。 「AAC approach とは」 生活と生きがい、コミュニケーションを支え促通する AAC の意義と技法について説明できる。	中島 雅史
14	通年	「CP 児への AAC approach」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を理解する。	「CP 児への AAC approach」 事例を通して評価の仕方、支援の進め方を読み解くことができる。	中島 雅史
15	通年	まとめ 学科試験	まとめ 学科試験	中島 雅史
成績評価		選択方式と記述方式による学科試験にて評価する。 選択問題7割、記述問題3割からなる試験、合計100点満点で評価する。 60点に満たない者は再試の対象とする。		
準備学習など		からだの機能や運動発達、咀嚼機能の発達、そして障害の学習は、馴染みづらいかも知れませんが、小児領域で働こうと考えている学生にとっては必須の授業です。 成人領域で働こうと考えている学生にとっても重要な授業です。 しっかり予習をして臨みましょう。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1年
-------	----------

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	音声障害	
担当者	田中康博	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 STのための音声障害診療 マニュアル, インテルナ 出版, 廣瀬 肇 (著, 監 修, 監修)	参考書 ② 新編 声の検査法, 医歯薬出版, 音声言語医学会(編); ②Voice and Voice Therapy 10th Edition, Pearson, D Boone et al (著); ③ ディサースリアの基礎と臨床 第 3 巻-臨床実用編-, インテルナ出版, 西尾 正輝(著); ④言語聴覚療法シリーズ 14 改訂 音声障害, 建帛社, 苅安誠・ 城本修 (編)

授業概要と目的
発声に関する基礎事項を理解し, 声の障害における原因, 症状, 検査, 訓練について学ぶ. 臨床で活用できるレベルにまで音声の評価法(音響分析)を理解し, 国際社会に通じる最先端の音声治療法について実技を通して修得する. なお, 言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かし授業を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「音声障害の概要と聴覚的評価」 音声障害の概要を理解する.	「音声障害の症状・所見と聴覚的評価」 音声障害が, どのような背景で出現しどのような症状となるのかを説明でき, 互いを関連付けることができる.	田中 康博
2	後期	「発声の基礎 (解剖学的, 生理学的な内容)」 発声に関する解剖学的所見と生理的運動を理解する	「喉頭の解剖と声帯運動」 発声に関わる喉頭の解剖学的構造とその筋肉運動について, ノート等を見ながらでも説明できる.	田中 康博
3	後期	「発声の基礎 (病態とその所見)」 音声障害を呈する疾患について理解する.	「音声障害の病態と声帯変化を理解する」 音声障害を呈する疾患の症状とそのリスクファクターについて関連付けて説明でき, 周辺環境にも存在するリスク因子について留意する/気づくことができる.	田中 康博
4	後期	「音声の評価について (生理, 音響, 聴覚的, 心理社会的)」 音声障害を評価する様々な評価	「音声評価の種類」 音声障害を評価する方法について各種評価の利点・欠点を対比し説明できる.	田中 康博

		媒体について理解する.		
5	後期	「音響学的検査(パラメータ説明)」 音響分析の特徴を理解する.	「音響パラメータの理解」 音響分析で得られるパラメータについてノートを見ながらでも説明でき、音響分析の利点と欠点について説明できる.	田中 康博
6	後期	「生理学的評価と心理社会的評価」 音声の評価である生理学的評価と心理社会的評価について理解する	「生理的・心理社会的評価の理解」 各種評価の種類の特徴について説明でき、分類できる。またその利点と欠点について説明できる.	田中 康博
7	後期	「音響分析(実践1)」 音響分析機器を用いて自身の声の特徴を客観的に把握するとともに、その特徴と聴覚的評価との相違・乖離について理解する.	「音響分析機器の操作と分析(実技)」 音響分析機器を操作できる。音響分析を実施する際の留意事項を把握し実践できる。 音響分析で使用される各種パラメータについて教科書を見ながらでも説明できる。聴覚的評価と関連付けて分析できる.	田中 康博
8	後期	「音響分析(実践2)」 音響分析機器を用いて自身の声の特徴を客観的に把握するとともに、その特徴と聴覚的評価との相違・乖離について理解する.	「音響分析機器の操作と分析(実技)」 音響分析機器を操作できる。音響分析を実施する際の留意事項を把握し実践できる。 音響分析で使用される各種パラメータについて教科書を見ながらでも説明できる。聴覚的評価と関連付けて分析できる.	田中 康博
9	後期	「評価のまとめ」 音声障害の評価法について再考し、その分類や世界的な流れを理解する.	「その他の評価法の紹介と評価のまとめ」 世界で利用されている各種評価法を知り、その特徴について解説できる.	田中 康博
10	後期	「音声治療1: 症状対処的」 音声障害治療における症状対処的治療法について理解し修得する	「症状対処的音声治療(実技)」 D Boone らの発表した症状対処的治療法を中心に留意事項を厳守し、実施することができる。 例: プッシング法, あくびため息法	田中 康博
11	後期	「音声治療2: 症状対処的」 音声障害治療における症状対処的治療法について理解し修得する	「症状対処的音声治療(実技)」 前講義で紹介した包括的音声治療法以外に利用されている治療法について留意事項を厳守し、実施することができる。 例: チューブ発声法, グッズマン法(指圧法)	田中 康博

12	後期	「音声治療 3: 包括的」 音声障害治療における包括的治療法について理解し修得する	「包括的音声治療(実技)」 包括的治療法について留意事項を厳守し、実施することができる。またその特徴と限界について説明できる。 例：LSVT, LMRVT, SPEAK OUT!	田中 康博
13	後期	「無喉頭音声 1: 概要」 無喉頭音声患者の病態と症状について理解する	「無喉頭音声の理解」 無喉頭音声の原因とその病態ならびに他の音声障害との違いについて説明できる。また無喉頭音声の音声障害以外の症状についても説明できる。	田中 康博
14	後期	「無喉頭音声 2: 治療」 代替音声について理解する。	「無喉頭音声患者の治療 (治療)」 電気式人工喉頭の利用法について実践できる。食道発声法についてその種類と相違について理解し実践できる。 その他の治療法について利点と欠点について説明でき、他の治療法との対比ができる。	田中 康博
15	後期	「学科試験」	「学科試験」(実技試験含む)	田中 康博
成績評価方法		試験は実技試験と紙面の試験の双方を実施します。実技試験は約 20%の配分で、「異常音声の発声」と「発声治療法」の双方を実施予定です。「異常音声」については基準のサンプルに近いほど点数は高値となる。「発声治療法」については留意事項を厳守し正確に実行できるかを評価の対象とする。紙面での試験は記述、穴埋め、選択式で約 60%の配分で採点する。レポート課題を課すことも考えており 10%の配分で評価に含める。		
準備学習など		発声の基礎となる、呼吸器ならびに喉頭の解剖学は理解しておくことが必要である。 講義内で伝達した音声障害の程度は再生機器などを用いて聴覚的に慣れておくことが必要。また発声治療法についてはクラス内もしくは個人で練習をし、修得しておくことが大切である。		
留意事項		講義内の実技場面では、クラス内での個々の協調性を重視します。		



学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	構音障害 I (運動障害性基礎理論)	
担当者	百々 加奈子	
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 ディサースリア臨床標準テキスト 西尾正輝著 医歯薬出版	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>ディサースリアについての運動系の理解や障害、タイプの病態特徴と重症度さらに評価や治療について学ぶ なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う</p> <p>授業目的</p> <p>ディサースリアについての基礎的事項の理解や臨床応用へのつながりが理解できる</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「歴史の視点」 ディサースリアについての国際的な歴史が理解できる。	「歴史の視点」 ディサースリアについての国際的な歴史を説明できる。	百々加奈子
2	前期	「ディサースリアとは何か」 ディサースリアの定義や障害構造、臨床的プロフィールの特徴が理解できる。	「ディサースリアとは何か」 ディサースリアの定義や障害構造、臨床的プロフィールの特徴が説明できる。	百々加奈子
3	前期	「ディサースリアの基礎理解」 タイプ分類、原因疾患、運動機能障害、聴覚的な発話特徴等の概略が理解できる。	「ディサースリアの基礎理解」 タイプ分類、原因疾患、運動機能障害、聴覚的な発話特徴等の概略が説明できる。	百々加奈子
4	前期	「運動系の基礎理解」 錐体路系、錐体外路系、小脳系、下位運動ニューロン、筋系が理解できる。	「運動系の基礎理解」 錐体路系、錐体外路系、小脳系、下位運動ニューロン、筋系が説明できる。	百々加奈子
5	前期	「運動系の障害」 錐体路系、錐体外路系、小脳系、下位運動ニューロン、筋系の障害	「運動系の障害」 錐体路系、錐体外路系、小脳系、下位運動ニューロン、筋系の障害が説明できる。	百々加奈子

		が理解できる。		
6	前期	「タイプごとの病態特徴と重症度」 弛緩性、痙性、失調性、運動低下性、運動過多性、混合性のディサースリアと UUMN の病態特徴と重症度が理解できる。	「タイプごとの病態特徴と重症度」 弛緩性、痙性、失調性、運動低下性、運動過多性、混合性のディサースリアと UUMN の病態特徴と重症度が理解できる。	百々加奈子
7	前期	「評価1」 標準ディサースリア検査の概要と解釈が理解できる。	「評価1」 標準ディサースリア検査の概要と解釈を説明できる。	百々加奈子
8	前期	「評価2」 情報取得の方法、ICF に基づいた評価、検査結果のまとめが理解できる。	「評価2」 情報取得の方法、ICF に基づいた評価、検査結果のまとめが説明できる。	百々加奈子
9	前期	「言語治療」 呼吸機能、発声機能、鼻咽腔閉鎖機能、構音機能の治療の概略と発話速度の調整法と AAC について理解できる。	「言語治療」 呼吸機能、発声機能、鼻咽腔閉鎖機能、構音機能の治療の概略と発話速度の調整法と AAC について説明できる。	百々加奈子
10	前期	「評価演習」 SLTA-ST の実施方法について理解できる。	「SLTA-ST について」 SLTA-ST の実施方法について説明ができ、また実施できる。	百々加奈子
11	前期	「評価演習」 標準ディサースリア検査の実施方法が理解できる。	「標準ディサースリア検査」 標準ディサースリア検査の実施方法について説明ができ、また実施できる。	百々加奈子
12	前期	「評価演習」 標準ディサースリア検査の実施方法が理解できる。	「標準ディサースリア検査」 標準ディサースリア検査の実施方法について説明ができ、また実施できる。	百々加奈子
13	前期	「臨床技能演習」 ディサースリア臨床に求められる技能を理解することができる。	「臨床技能演習」 ディサースリア臨床に求められる技能を実施することができる。	百々加奈子

14	前期	「臨床技能演習」 ディサースリア臨床に求められる技能を理解することができる。	「臨床技能演習」 ディサースリア臨床に求められる技能を実施することができる。	百々加奈子
15	前期	「まとめと評価（科目試験）」 科目試験とまとめでディサースリアの全概要を理解する。	「ディサースリア検全体の評価（科目試験）」 ディサースリアの各領域について具体的に述べることができる。	百々加奈子
成績評価方法		学科試験にて多肢選択方式 100 点で実施。		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1 学年
科目名	構音障害Ⅱ（運動障害性総合・演習）
担当者	西脇 克浩
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 ・ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 インテルナ出版 西尾正輝(著) 参考書 ・ディサースリアの基礎と臨床 第1巻,第3巻 インテルナ出版 西尾正輝(著) ・ケースで学ぶディサースリア インテルナ出版 西尾正輝(著) ・各種解剖学書籍

授業概要と目的
<p>運動障害性構音障害(Dysarthria, ディサースリア)における</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タイプ毎の病態、障害構造を理解する</li> <li>2. 評価と治療方法を理解する</li> <li>3. 治療システムについて理解しプログラム立案ができるようにする,</li> <li>4. 摂食・嚥下機能との関連性に注目できるようにする</li> <li>5. 事例報告書のまとめ方を習得する.</li> </ol> <p>なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	運動障害性構音障害(Dysarthria, ディサースリア)の概要 運動障害性構音障害の定義、病態などについて理解する	運動性構音障害の定義と概要を理解する。 ディサースリアとその他コミュニケーション障害との違いを説明できるようになる	西脇 克浩
2	通年	神経系 1 ディサースリアに関わる神経系の概要を理解する 対象疾患の病態についても理解する	皮質延髄路と皮質脊髄路における神経解剖の概要理解する.ディサースリアが生じる疾患についての病態を理解する	西脇 克浩
3	通年	神経系 2 ディサースリアに関わる神経系の概要を理解する 対象疾患の病態についても理解する	錐体外路 小脳系 等 神経解剖、概要を理解する ディサースリアが生じる疾患についての病態を理解する	西脇 克浩

4	通年	呼吸機能1(概要) 呼吸器についての解剖、概要を理解する。	呼吸に関する解剖学的・生理学的所見について説明できる。呼吸に関連する発話障害の病態を理解	西脇 克浩
5	通年	呼吸機能2(評価・治療) 呼吸機能に関する評価法・治療法について理解する。	呼吸機能の評価と治療について理解する また治療機器などの見知を広め、使用方法、利点などを説明することができる。	西脇 克浩
6	通年	発声機能について 発声機能の概要 評価方法 訓練方法を理解する	発声機能に関して神経解剖生理や病態を理解する。評価方法 訓練方法を理解する	西脇 克浩
7	通年	顔面の機能 評価訓練について 評価方法 訓練方法を理解する	顔面筋の解剖を理解 AMSDに沿った顔面の評価方法を確認する 顔面に対する訓練法を理解する	西脇 克浩
8	通年	舌の機能 評価訓練について1 評価方法 訓練方法を理解する	舌の解剖を理解する AMSDに沿った舌の評価方法を確認する 舌に対する訓練方法を理解する	西脇 克浩
9	通年	舌機能の評価訓練について2 評価方法 訓練方法を理解する	舌に対する訓練方法を理解し 学生間で実際に実施し、理解を深める	西脇 克浩
10	通年	鼻咽腔閉鎖機能について 1 評価方法 訓練方法を理解する	鼻咽腔閉鎖機能に関する解剖生理を理解する。 AMSDに沿った鼻咽腔閉鎖機能の評価方法を確認する	西脇 克浩
11	通年	鼻咽腔閉鎖機能について 2 評価方法 訓練方法を理解する	鼻咽腔閉鎖機能障害に対する訓練方法を理解する 学生間で実際に実施し、理解を深める	西脇 克浩
12	通年	発話の評価について ディサースリアの発話特徴を把握し適切に評価する事ができる	聴覚的評価方法を理解する 会話明瞭度 自然度などを実際に評価し、理解を深める 発話特徴と病態とを結び付ける事ができる	西脇 克浩
13	通年	検査について 1 ディサースリアの検査種類 その内容を理解する	本邦で使用されるディサースリアの検査内容の紹介 内容を確認する 学生同士でディサースリアの検査を実施し、理解を深める	西脇 克浩
14	通年	検査について 2 ディサースリアの検査内容を把握し、理解を深める	学生同士でディサースリアの検査を実施することで理解を深める	西脇 克浩

15	通年	拡大代替コミュニケーション (AAC)について	AACの種類を理解する 一部を学生間で実際に使用することで理解を深める	西脇 克浩
16	通年	ICFと運動性構音障害について理解する	ICFの考えをディサースリアの事例に当てはめていく事を理解する。リハビリテーションに繋げていく考えを持つ	西脇 克浩
17	通年	1 動画観察 症例報告 症例報告書およびレポートを作成することができる	実例を通して事例報告書を作成する 学生間で討論相談しレポートをまとめることができる	西脇 克浩
18	通年	2 動画観察 症例報告 グループで症例報告書を作成し発表することができる	作成した報告書をグループで発表し、学生同士で意見交換をすることができる	西脇 克浩
19	通年	ディサースリアに対するリハビリテーションを模擬体験する	模擬訓練を行う事で、患者との接し方や教示の仕方、立ち位置、観察の方法等を体感し理解する	西脇 克浩
20	通年	「学科試験」とまとめ	学科試験とまとめ	西脇 克浩
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点 筆記試験で実施予定です。選択問題、記述問題 とで構成します。		
準備学習など		口腔構音機能に関わる解剖学 生理学は一通り理解しておくことが望ましい		
留意事項		実技実施場面では感染対策に留意して実施させていただきます		

学科・年次	言語聴覚科・1年次	
科目名	構音障害Ⅲ（機能的）	
担当者	山田 伊久子	
単位数（時間数）	1単位（15時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 言語聴覚士のための 機能的構音障害学 （医歯薬出版株）	参考書 言語聴覚療法シリーズ7 改訂機能的構音障害 （建帛社） 構音訓練のためのドリルブック （協同医書出版社）

授業概要と目的
<p>構音障害の種類、機序を理解し、機能的構音障害の症状から原因が特定できるようになる。正常構音の機序が分かり構音訓練の方法を考えることが出来る。新版 構音検査の実施方法、結果をまとめることが出来る。MFT（口腔筋機能療法）APD（聴覚処理障害）DLT（両耳分離聴検査）について知る。</p> <p>言語聴覚士として、療育施設等で臨床経験のある者が実例を交えその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「構音障害とは」 構音障害の種類と機序を理解する。 構音器官の解剖学的理解をする リハビリテーションの流れを理解する	「構音障害の概要が分かる」 構音障害の分類ができる。 機能的構音障害の定義が説明できる。 機能的構音障害のリハビリテーションの流れと概要が説明できる。	山田伊久子
2	前期	「言語聴覚士のアプローチ」 初回面接からの一連の流れを理解する	「機能的構音障害の言語訓練が分かる」 インテーク、検査、評価、訓練、終了のめあすのそれぞれについて具体的内容が説明できる。	山田伊久子
3	前期	「正常構音、異常構音について」 正常構音方法を知り、誤り音の訓練方法を理解する	「構音訓練の実際」 誤り音の種類が説明できる 音の産生訓練・方法が説明できる	山田伊久子
4	前期	「新版 構音検査」 新版 構音検査演習	「新版 構音検査演習」 新版 構音検査の方法を知る	山田伊久子

5	前期	「新版 構音検査のまとめ」 新版 構音検査の記録のまとめ をする	「新版 構音検査のまとめ」 検査結果のまとめができる 問題点分かる	山田伊久子
6	前期	「構音プログラム」 構音訓練プログラムの内容を理 解する	「構音プログラムの作成」 /k//s//t/の構音プログラムを作成する	山田伊久子
7	前期	「構音障害のその他の原因につ いて」 最新あるいはその他の考え方を 知る	「MFT、APD、DLT について」 MFT について説明できる APD について説明できる DLT について説明できる	山田伊久子
8	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通して各回の講義内 容を理解する。	「科目試験とまとめについて」 科目試験の問題を解くことが出来る。 機能性構音障害の言語訓練について説明で きる	山田伊久子
成績評価方法		記述式・選択問題で 90 点。国家試験過去問題で 10 点。計 100 点満点の試験。		
準備学習など		教科書に沿って学習します。範囲を読んで家庭学習をしてください。		
留意事項		診断・訓練方法は、2 年で学習する構音障害Ⅳ（器質性構音障害）と重複する内容も含まれま す。		



学科・年次	言語聴覚科	
科目名	嚥下障害 I（基礎理論）	
担当者	小林 二成	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション	参考書

授業概要と目的
病院・老人保健施設で摂食嚥下障害リハビリテーション経験のある教員が、解剖から評価訓練まで講義し摂食嚥下障害の理解と対応の基礎について理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「摂食嚥下障害とは摂食嚥下障害の解剖①」 摂食および嚥下、嚥下障害とは何かを知る。これらに関わる神経や筋肉の働きについて知る。	「摂食嚥下障害・摂食嚥下障害の解剖①」 摂食嚥下障害の定義について説明ができる 摂食嚥下障害に関わる神経や筋肉の働きについて説明できるようになる。	小林 二成
2	後期	「摂食嚥下障害の解剖②」 摂食嚥下に関わる神経と筋肉の働きについて知る	「摂食嚥下障害の解剖②」 摂食嚥下に関わる神経と筋肉の働きについて説明できるようになる	小林 二成
3	後期	「摂食嚥下のメカニズム」 嚥下のメカニズムを理解する	「摂食嚥下のモデル」 代表的なモデルについて簡単に説明ができるようになる	小林 二成
4	後期	「嚥下各期における障害と原因」 嚥下各期の特徴的障害とその原因を理解する	「嚥下各期における障害と原因」 嚥下各期の特徴的障害とその原因との関係を考えることができる。	小林 二成
5	後期	「摂食嚥下に関与する諸因子」 加齢変化、姿勢など摂食嚥下に影響を及ぼすものは何か理解する	「摂食嚥下に関与する諸因子」 摂食嚥下に影響を及ぼす事象について説明することができる。	小林 二成
6	後期	「摂食嚥下障害の評価・診断」 評価診断に必要な知識や収集すべき情報について理解する	「摂食嚥下障害の評価・診断」 評価診断に必要な知識や収集すべき情報について簡単に説明できるようになる	小林 二成

7	後期	「嚥下障害のスクリーニング」 スクリーニング検査について理解する。	「各種スクリーニング」 スクリーニングについてその必要性や手技・評価方法を説明できる	小林 二成
8	後期	「嚥下障害の評価」 嚥下障害の精査について知る	「嚥下造影検査」 VFの実施方法、評価項目、評価結果の訓練への活用について説明できる	小林 二成
9	後期	「嚥下障害の評価」 嚥下障害の精査について知る	「嚥下内視鏡検査」 VEの実施方法、評価項目、評価結果の訓練への活用について説明できる	小林 二成
10	後期	「嚥下障害の訓練」 訓練の進め方、リスク管理を知る	「間接訓練」 間接訓練の適応を理解し、適切な実施法を選択できる	小林 二成
11	後期	「嚥下障害の訓練」 訓練の進め方、リスク管理を知る	「直接訓練」 間接訓練の適応を理解し、適切な実施法を選択できる	小林 二成
12	後期	「代替栄養」 経口摂取困難な場合の栄養の摂取方法について知る	「代替栄養」 各種代替栄養の特徴を理解し、状態に応じた方法の選択について考えることができる	小林 二成
13	後期	「嚥下障害の外科的対応」 訓練では対応できない場合の外科的対応について理解する	「外科的対応」 各種外科的対応について理解し、状態に合わせた選択について考えることができるようになる	小林 二成
14	後期	「小児の嚥下障害」 小児期におこる嚥下障害について理解する	「小児の嚥下障害」 成人の嚥下障害とは異なる特徴的な部分について理解し説明することができる。	小林 二成
15	後期	「科目試験とまとめ」	「科目試験とまとめ」	小林 二成
成績評価方法		100点満点〇×、記述式による解答で行う。		
準備学習など		摂食嚥下障害の臨床は本人だけでなく環境因子を含め多要因が関与します。「食べるとは、生きるとは」広い視野で考えることが求められます。摂食嚥下リハ学会、老年医学会など関連学会のHPなどを参考にし、幅広い見識を持つことを心掛けて下さい。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 1 学年	
科目名	吃音	
担当者	廣 嵩 忍	
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	教科書 子どもがどもっていると感じたら 廣嵩忍・堀彰人、大月書店	参考書 発声発語障害学 第2版 熊倉勇美、今井智子編集、医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>吃音の原因や特性、吃音臨床に必要な評価・指導法について講義する。吃音者の心理について、当事者の作文等を利用して解説する。</p> <p>授業目的</p> <p>吃音の原因や特性について十分に理解し、吃音のライフステージに合わせた評価および支援の方法を立案・実施できるようになる。臨床経験のある非常勤講師がその経験を活かし授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「吃音の特徴について」 吃音の症状について理解する。	「吃音のタイプと発吃」 吃音の言語症状を説明できる。 発吃の時期と幼児期の吃音の特徴を説明できる。	廣嵩忍
2	前期	「吃音の進展について」 吃音は問題が変化することを理解する。	「Van Riper の吃音の進展段階」 Van Riper の吃音の進展段階が説明できる。進展段階の問題点が解説できる。	廣嵩忍
3	前期	「吃音の原因論について」 吃音の原因論について、学習論の内容を理解する。	「診断起因説」 ジョンソンの診断起因説を説明できる。 診断起因説の功罪を説明できる。	廣嵩忍
4	前期	「吃音の原因論について」 吃音の原因論について、器質論を理解する。	「吃音者の脳と遺伝」 脳機能の計測方法や遺伝の研究方法が説明でき、吃音者の脳や遺伝の特徴が説明できる。	廣嵩忍

5	前期	「吃音の評価について」 吃音の評価方法について理解する。	「吃音の包括的評価」 吃音の包括的評価の重要性を説明し、方法を例示できる。	廣 嵩 忍
6	前期	「吃音の検査について」 吃音検査法の概要を理解する。	「吃音検査法」 吃音検査法の検査項目を説明し、実施方法を解説できる。	廣 嵩 忍
7	前期	「吃音の言語訓練について」 吃音の言語訓練の方法を理解する。	「流暢性促進法と吃音修正法」 流暢性促進法と吃音修正法のそれぞれについて、方法および問題点を説明できる。	廣 嵩 忍
8	前期	「吃音の心理的支援について」 吃音の心理療法や自助グループの役割を理解する。 「まとめ・科目試験」 各回の講義内容を理解する	「認知行動療法とセルフヘルプグループ」 吃音の認知行動療法が説明できる。 吃音者のセルフヘルプグループによる支援の利点を説明できる。 「まとめ・科目試験」 科目試験の問題を解くことができる	廣 嵩 忍
成績評価方法		100点満点の学科試験により評価する。○×方式、語句の穴埋め、記述式の問題を出題する。○×方式 30点、語句の穴埋め 20点、記述式 50点の配点とする。記述式は、必要な語句が含まれない場合に減点する方式で採点する。予習プリントの実施程度をチェックし、予習を行っていない場合は、最終成績評価より 10点減点する。ただし、予習による最終成績評価への加点は行わない。		
準備学習など		事前に配布されたプリントを、授業前に予習する。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	聴覚障害Ⅰ（小児）
担当者	森河孝夫
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	「改訂 聴覚障害Ⅰ基礎編」「改訂 聴覚障害Ⅱ臨床編」 山田弘幸編著 建帛社

授業概要と目的
<p>小児聴覚障害の診断とリハビリテーションに必要な基礎知識を知り、臨床活動の概要を学ぶ。</p> <p>なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚障害の基礎知識」 聴覚器官の概要を知る 聴覚器官各部の機能を知る	「聴覚器官の構造・機能とその障害」 外耳、中耳、内耳、聴覚伝導路の構造と、 それぞれの果たす機能を説明できる。	森河孝夫
2	通年	「聴覚障害の種類と性質」 障害部位によって異なる聴覚障害 の区分と性質を学ぶ	「障害部位による種別と特性」 伝音難聴、感音難聴、後迷路性難聴などの 特性が説明できる。 代表的疾患を分類できる。	森河孝夫
3	通年	「聴覚障害の影響」 難聴の程度や聴力型によって異 なる障害の影響について学ぶ	「難聴の程度・聴力型とその影響」 代表的聴力型の種類と特徴が説明できる。 平均聴力と難聴の程度分類を説明できる。 日常生活や言語発達への影響が分かる。	森河孝夫
4	通年	「乳幼児の聴覚評価」 聴性行動発達の概要を知る 各種乳幼児聴力検査について学 ぶ	「乳幼児聴覚検査法と聴覚評価」 乳幼児の行動的聴力検査の基礎となる聴性 行動発達の概要が説明できる。 各種検査の装置、方法、適用年齢等が説明 できる。	森河孝夫
5	通年	「乳幼児聴力検査法」 各種乳幼児聴力検査の実施法を 学ぶ	「行動的聴力検査の実際」 BOA、VRA、COR、ピープショウテスト、 遊戯聴力検査が実施できる。	森河孝夫
6	通年	「他覚的聴力検査Ⅰ」 聴性脳幹反応検査の方法と聴力 の推定について学ぶ	「聴性誘発反応と聴性脳幹反応検査」 聴性脳幹反応の原理と特徴を説明できる。 検査の実施法と推定聴力の算出について説	森河孝夫

			明できる。	
7	通年	「他覚的聴力検査Ⅱ」 ASSR、OAE 検査の方法と診断上の意義について学ぶ	「聴性定常反応(ASSR)と耳音響放射(OAE)」 検査の原理と方法を説明できる。 検査結果を正しく解釈できる。	森河孝夫
8	通年	「聴覚障害児の早期発見」 早期発見の必要性について知る 聴覚スクリーニングについて学ぶ	「早期発見の必要性とスクリーニング」 難聴の発見が遅れることの影響を理解し、 聴覚スクリーニングの方法と現状について説明できる。	森河孝夫
9	通年	「コミュニケーションメディア」 聴覚障害児者の用いる各種メディアを知る	「聴覚障害児者と各種メディア」 手話・指文字・キューサイン・音声言語・ 文字(筆談)等の概要と特性について説明できる。	森河孝夫
10	通年	「教育方法」 各種教育方法の基本的思想と方法、特徴について学ぶ	「聴覚障害児教育の各種方法論」 音声言語を中心とする各方法、手指メディアを用いる各方法の概要と特徴について説明できる。	森河孝夫
11	通年	「補聴手段」 聴覚障害児の指導を理解する上で必要な補聴器と人工内耳の効果と特性を理解する	「補聴器と人工内耳の適用範囲と特性」 補聴器や人工内耳はどのような場合に有効であり、どのような効果が期待できるかについて説明できる。	森河孝夫
12	通年	「聴覚障害児の指導機関」 各種指導機関について知る 「福祉サービスの基礎」 聴覚障害乳幼児に関与する福祉サービスの概要を知る	「聴覚障害児訓練指導機関の種類と特徴」 訓練指導に関する聾学校、通園施設、クリニック方式の指導形態と特徴を説明できる。 「身体障害者手帳と福祉サービス」 身体障害者手帳の判定基準を理解し、該当を判断できる。 手帳に基づく福祉サービスの概要を説明できる。	森河孝夫
13	通年	「訓練指導の枠組み」 聴覚障害児の臨床活動について実施すべき活動を知る	「訓練指導を構成する要素と時期」 難聴診断後に各時期に応じて展開される訓練指導の各要素の概要を把握できる。	森河孝夫
14	通年	「評価」 聴覚障害による言語発達、構音発達、その他の必要な評価方法を知る	「各種検査法と限界・行動観察」 発達・知能検査、言語検査で得られる情報と限界について説明できる。 行動観察によって評価すべき観点を挙げられる。	森河孝夫

15	通年	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	森河孝夫
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	聴覚障害Ⅱ（各論・小児演習）
担当者	森河孝夫、諸橋麻衣子
単位数（時間数）	2単位（46時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	「改訂 聴覚障害Ⅰ基礎編」「改訂 聴覚障害Ⅱ臨床編」 山田弘幸編著 建帛社

授業概要と目的
聴覚障害児の臨床の全体像を知り、実際の評価、指導について学ぶとともに、必要な技能を身につける。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「各論Ⅰ」 各種検査や観察から聴覚の評価を行う方法を学ぶ 乳幼児の補聴器フィッティングと装用指導の実際を学ぶ	「聴覚評価と補聴器フィッティング」 行動的検査と他覚的検査の結果に加え、観察に基づく聴覚評価の概要を説明できる。 限られた聴覚の情報から補聴器を選択調整して行く方法を実践できる。	森河孝夫
2	後期	「各論Ⅱ」 難聴診断後の初期の家族指導について学ぶ コミュニケーション指導の必要性と内容を学ぶ	「初期の家族指導とコミュニケーション指導」 難聴児を育てて行く上で重要な家族の役割、基礎的知識を説明することができる。 難聴児のコミュニケーションの特性と指導内容について説明できる。	森河孝夫
3	後期	「各論Ⅲ」 聴能訓練の内容と方法について学ぶ	「聴能訓練」 聴能訓練で扱う内容と、具体的な方法を挙げ、目的に合った訓練を立案することができる。	森河孝夫
4	後期	「各論Ⅳ」 言語訓練の内容と方法について学ぶ	「言語訓練」 言語訓練で扱う内容と、具体的な方法について説明し、目的に合った訓練を立案することができる。	森河孝夫
5	後期	「各論Ⅴ」 発声発語訓練の必要性と訓練の概	「発声発語訓練の概要」 発声発語訓練の必要性を説明できる。	森河孝夫



		略について知る 基本的な訓練の手順を学ぶ	単音の誘導から単語、文の指導までの訓練手順について説明できる。	
6	後期	「各論Ⅵ」 発声発語基礎訓練を知る 声の誘導、発声訓練を知る 母音構音訓練を知る	「発声発語基礎訓練～発声、母音(実技)」 発声発語基礎訓練が実施、立案できる。 発声訓練が実施、立案できる。 母音構音訓練が実施、立案できる。	森河孝夫
7	後期	「各論Ⅶ」 子音音節までの構音訓練を知る	「各種子音訓練(実技)」 各種子音毎の構音訓練が実施、立案できる。	森河孝夫
8	後期	「構音訓練の実際」 実際の構音訓練場面を知る	「ビデオ症例で見る構音訓練」 実際の構音訓練方法をイメージできる。 構音訓練における対象児の状況把握とそれに応じた訓練の調節、訓練活動の注意点が考察できる。	森河孝夫
9	後期	「各論Ⅷ」 訓練に用いられる各種課題の種類、名称、目的を学ぶ	「訓練の基本課題と記述用語」 訓練活動を記述するための訓練課題名と記述法を知り、適切に記述できる。 訓練課題の目的を考察できる。	森河孝夫
10	後期	「各論Ⅸ」 訓練セッションを計画するための課題の選択と難易度調節の方法を知る	「訓練の組み立てと難易度の調節」 それぞれの訓練目的に沿った課題を選択できる。 対象児に適した難易度調節の方法を説明できる。	森河孝夫
11	後期	「観察による評価の実際」 症例ビデオの観察による状況把握の方法を学ぶ	「ビデオ症例 1 観察による評価と解説」 ビデオ症例のコミュニケーション、言語力についての情報を把握できる。 症例の問題点を挙げることができる。	森河孝夫
12	後期	「訓練場面の観察記録」 観察した訓練場面の記録のしかたを体験する。	「ビデオ症例 2 観察記録」 観察した一連の訓練場面を読み手に伝わるように適切な用語、表現で記述できる。	森河孝夫
13	後期	「訓練組み立ての実際」 実際の症例に対する訓練計画の作成を学ぶ	「症例における訓練の組み立ての例」 症例の問題点を元に必要な訓練内容、目的に適した訓練構成を体験する。	森河孝夫
14	後期	「訓練場面の観察記録と考察」 観察した訓練場面の記録のしかたを体験し、訓練のねらいを理解する。	「ビデオ症例 3 観察記録と訓練目的」 観察した一連の訓練場面を読み手に伝わるように適切な用語、表現で記述できる。 各訓練課題の目的を考察して記述できる。	森河孝夫

15	後期	「重度難聴児の構音評価の実際」 症例ビデオの観察により構音の評価を学ぶ	「ビデオ症例 4 構音の評価」 重度難聴児の構音を評価し、問題点を指摘することができる。	森河孝夫
16	後期	「訓練計画立案の実際」 症例ビデオの観察により問題点に沿った訓練計画を学ぶ	「ビデオ症例 5 訓練計画の立案」 症例の問題点を挙げ、訓練目標を設定し、訓練計画を考えることができる。	森河孝夫
17	後期	「難聴の理解Ⅰ」 難聴とその影響についてより詳しく知る	「聞こえないってどういうこと」 難聴がもたらす生活上の不自由さ、不便を説明できる。	諸橋麻衣子
18	後期	「難聴の理解Ⅱ」 難聴による不便や不自由さを知る。	「疑似難聴体験」 難聴者の置かれた状況を疑似体験することで、その影響を深く理解することができる。	諸橋麻衣子
19	後期	「難聴の理解Ⅲ」 難聴児の障害認識について知る	「聞こえない障害を理解する」 難聴の心理的課題としての障害認識とアイデンティティ形成の問題について説明できる。	諸橋麻衣子
20	後期	「難聴児指導の全体像」 実際の難聴児指導がどのように行われるのかを理解する	「ことばをそだてる(概論)」 難聴児の生活言語を育てる指導の概要を説明できる。	諸橋麻衣子
21	後期	「乳児期の具体的指導」 乳児期における発達と訓練について学ぶ	「聞こえない子のことばを育てる(乳児期)」 乳児期の難聴児の言語発達の様相や指導内容について説明できる。	諸橋麻衣子
22	後期	「幼児期の具体的指導」 幼児期における発達と訓練について学ぶ	「聞こえない子のことばを育てる(幼児期)」 幼児期の難聴児の言語発達の様相や指導内容について説明できる。	諸橋麻衣子
23	後期	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	森河孝夫

成績評価方法	科目試験 (50%)、観察レポート (50%)
準備学習など	
留意事項	

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	視覚・聴覚二重障害
担当者	森河孝夫
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	「改訂 聴覚障害Ⅱ臨床編」 山田弘幸編著 建帛社

授業概要と目的
<p>視覚・聴覚二重障害（盲ろう）者の現状と課題を理解する。視覚・聴覚二重障害者は、視覚障害、聴覚障害の程度、障害を受けた時期、および障害を受けた順序などによって多様なコミュニケーション手段を使用する。特に、コミュニケーション手段の種類について理解してほしい。なお、盲ろう体験も行い、コミュニケーションの難しさを実感する疑似体験を行う。なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「視覚障害」 視覚の基礎知識を学ぶ 視覚障害疾患の概要を知る	「視覚の基礎知識と疾患」 視覚の仕組みと特性を説明できる。 視覚障害を起こす代表的疾患、特に二重障害に関連しやすい疾患について病名や病態について説明できる。	森河孝夫
2	後期	「視覚障害の理解と生活」 視力障害と視野障害の影響を知る 視覚障害者の補助機器について知る	「視覚障害児者の不自由とコミュニケーション」 視力障害や視野障害の影響を体験的に理解できる。 視覚障害者が用いる補装具、補助機器とコミュニケーション方法を説明できる。	森河孝夫
3	後期	「視覚聴覚二重障害を知る」 視覚聴覚二重障害者の置かれる状況を知る 視覚聴覚二重障害の分類を学ぶ	「視覚聴覚二重障害の現状と多様性」 視覚聴覚二重障害者の置かれる状況について体験的に理解できる。 発症時期や障害の程度によって分類される二重障害者の分類と性質の違いを説明できる。	森河孝夫
4	後期	「コミュニケーション手段」 視覚聴覚二重障害者が用いるコミュニケーション手段の概要と	「各種コミュニケーション手段の概要」 コミュニケーション手段の概要と使用方法、適用される対象について説明できる。	森河孝夫

		方法を知る		
5	後期	「介助・通訳の方法」 視覚聴覚二重障害者に対する移動介助・通訳の方法について知る	「移動介助・通訳の原則と具体的方法」 二重障害者に対する移動介助・通訳を行う場合の方法や基本的原則、注意点を挙げられる。	森河孝夫
6	後期	「介助・通訳体験」 通訳・移動介助の経験を通してその方法を知る 介助を受ける二重障害者の体験を通してその困難と介助の必要性を知る	「通訳・介助を行う体験、受ける体験」 実際の体験によって、通訳・介助の基本的原則や注意点の意味を理解し、その理由まで説明できる。 盲ろう者の困難を理解し、必要な配慮について考察できる。	森河孝夫
7	後期	「先天性盲ろう児への対応」 先天性盲ろう児の行動特性を知る 先天性盲ろう児への対応の原則と方法を学ぶ	「先天性盲ろう児の特性と介入」 先天性盲ろう児の行動上の特性について理解し、その対応法について説明できる。 コミュニケーション指導とその方法、言語の導入とその方法について説明できる。	森河孝夫
8	後期	まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	森河孝夫
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	聴力検査（理論・演習）
担当者	福本和華子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書：日本聴覚医学会編 聴覚検査の実際改訂4版 南山堂 参考書：服部浩著 図解 実用的マスキングの手引き 第4版 中山書店

授業概要と目的
<p>聴力検査法の原理と実施法を習得する。</p> <p>なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「聴覚検査の基礎」 聴覚検査を行うために必要な音の基礎知識を学ぶ 検査に対する心構えを理解する	「音の基礎知識と単位」 音とは何か、音の分類を説明できる。 音の3要素に関連する物理的要因と単位・表示について説明できる。 「聴覚検査の心構え」 正しい検査を行うことの必要性和責任を自覚し、そのための心構えを述べられる。	福本和華子
2	通年	「オーディオメータ」 オーディオメータの操作と性能維持に必要な手順、注意点について学ぶ	「オーディオメータの構造と操作」 オーディオメータ各部の名称と働き、正しい操作法を説明できる。 オーディオメータで安全に正しく検査するための注意点について説明できる。 「オーディオメータの保守点検」 検査精度を維持するための保守・点検方法について説明できる。	福本和華子
3	通年	「標準純音聴力検査」 標準純音聴力検査の方法を知る オーディオグラムの記載法を知る	「気導聴力検査、骨導聴力検査の方法」 標準純音聴力検査の実施法を説明できる。 検査結果のオーディオグラムへの記載方法を説明できる。	福本和華子
4	通年	「標準純音聴力検査演習」 標準純音聴力検査の実施法を学	「気導聴力検査、骨導聴力検査の実際」 標準純音聴力検査がマニュアルを見ながら	福本和華子

		ぶ	実施できる。	
5	通年	「標準純音聴力検査演習」 標準純音聴力検査の実施法に習熟する	「気導聴力検査、骨導聴力検査の実際」 標準純音聴力検査の実施がマニュアルを見ずスムーズに実施できる。 結果を正しくオーディオグラムに記載できる。	福本和華子
6	通年	「マスキングの基礎」 マスキングの理解に必要な基礎的知識を学ぶ 基本的用語を理解する	「マスキングの必要性と原理」 マスキングの必要な理由を説明できる。 両耳間移行減衰量と交叉聴取が起こる条件を説明できる。 実効マスキングレベルとマスキングの実効レベルの意味を説明し、マスキング効果を算出できる。	福本和華子
7	通年	「マスキングの原則」 マスキング量が増加するに従って生じる反応閾値の変化、左右聴力との関係を理解する マスキングの必要性判断と正しいマスキング量について学ぶ	「マスキング量の変化と反応変化」 マスキングの不足、プラトー、オーバーマスキングが起こる条件について説明できる。 「マスキングの要否判断と正誤判断」 様々な条件でマスキングが必要であるかと特定のマスキングレベルが適切であるかを判断できる。	福本和華子
8	通年	「マスキングの実際」 初歩的マスキング法、プラトー法によるマスキング法、ABC マスキング法について学ぶ。	「実践的マスキングの理解と選択」 各マスキング法の利点、欠点を知り、適切なマスキング法を選択して実施できる。	福本和華子
9	通年	「語音聴力検査」 語音聴力検査の種類、検査の意義、音源の種類と内容を知る 検査の実施法と実施上の注意点について学ぶ	「語音聴力検査の基本と実施法」 語音聴力検査の種類と検査の意義について説明できる。 使用する語表の種類と内容を説明できる。 実際に検査を行う準備、実施法、注意点について説明できる。	福本和華子
10	通年	「インピーダンスオーディオメトリー」 ティンパノメトリーの原理と実施法を学ぶ 音響性耳小骨筋反射の原理と実施法、結果の解釈について学ぶ	「インピーダンスオーディオメトリーの基本と実施法」 ティンパノメトリーと音響性耳小骨筋反射検査の原理と結果の解釈、臨床的意義について説明できる。 両検査の実施に必要な検査方法に関する知識を説明できる。	福本和華子

11	通年	「内耳機能検査」 各種内耳機能検査の原理、適応、 実施法について学ぶ 「自記オージオメトリー」 自記オージオメトリーの原理と 特徴、実施法と結果の解釈を知る	「内耳機能検査の基本と実施法」 ABLB,SISI,DL,MCL,UCL 検査の原理と 対象、実施法、結果の解釈を説明できる。 「自記オージオメトリーの基本と実施法」 自記オージオメータの構造を説明できる。 自記オージオメトリーの実施法を説明でき る。 <b>Jerger</b> 分類の方法とその臨床的域を説明 できる。	福本和華子
12	通年	「その他の検査」 詐聴検査、選別検査、耳管機能検 査の概要を知る 「平衡機能検査」 平衡機能検査の概要を知る	「詐聴検査・選別検査・耳管機能検査」 詐聴検査、耳管機能検査の種類を挙げられ る。 詐聴検査、耳管機能検査の原理について説 明できる。 「平衡機能検査の概要」 平衡機能検査の種類と検査法の概要を説明 できる。	福本和華子
13	通年	「各種検査演習 1」 標準純音検査以外の主な聴覚検 査を体験する	「各種検査の実際」 ティンパノメトリー、内耳機能検査、語音 聴力検査、自記オージオメトリーが実施で きる。	福本和華子
14	通年	「各種検査演習 2」 標準純音検査以外の主な聴覚検 査を体験する	「各種検査の実際」 ティンパノメトリー、内耳機能検査、語音 聴力検査、自記オージオメトリーが実施で きる。	福本和華子
15	通年	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	補聴器（理論・演習）
担当者	福本和華子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 言語聴覚療法シリーズ5 改訂 聴覚障害Ⅰ－基礎編

授業概要と目的
補聴器の構造と機能、種類、調整法の実際等、補聴器フィッティングに必要な基礎知識と実際のフィッティング方法、評価法について学習する。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「補聴器の種類」 補聴器の種類と各タイプの特徴について学ぶ	「補聴器各タイプの特徴」 補聴器の各タイプの区別と違い、用途、特徴を説明できる。	福本和華子
2	後期	「補聴器の構造と機能」 代表的なタイプの補聴器の構造と各部の名称を知る 補聴器を調整する各種機能の種類と働きを学ぶ	「補聴器各部の名称と調整機能」 補聴器各タイプの構成部分について、その名称と構造を述べることができる。 利得調整、音質調整、出力制限、コンプレッションの働きと用途、方式の種類と特徴について説明できる。	福本和華子
3	後期	「デジタル補聴器」 デジタル補聴器の種類と特徴について学ぶ 「補聴器特性の測定法」 主にJIS規格に基づいた補聴器特性の測定法とその見方を学ぶ	「デジタル補聴器の特徴と機能」 デジタル補聴器の種類と調整法の違いについて説明できる。 デジタル補聴器の特殊機能を説明できる。 「特性測定装置による特性測定」 JIS規格に基づいた補聴器特性測定の方法を説明できる。 補聴器特性測定結果から得られる情報の意味について説明できる。 JISによる測定の意味とそれ以外の測定の必要性を説明できる。	福本和華子
4	後期	「特性測定の実際」	「特性測定装置による測定デモ」	福本和華子



		実際の特性測定を体験して実際の測定法を知る。	各種測定の方法と、その測定結果の意味について説明できる。	
5	後期	「その他の特性測定」 特性測定装置によるデータの限界を知り、より実際の効果に近い測定法を学ぶ	「特性測定装置以外の測定法について」 マネキンを用いた測定、実耳測定の方法と利点について説明できる。 裸耳利得、装用利得、挿入利得、機能利得の測定法とそれぞれの関係について説明できる。	福本和華子
6	後期	「特性測定演習」 特性測定器を用いた補聴器特性試験の方法を知る。	「基本的な特性測定の実施について」 特性測定装置を用いて、最大音響利得、最大出力音圧、周波数レスポンスと音質調整の効果の測定が実施できる。	福本和華子
7	後期	「イヤモールドと採型」 イヤモールドの種類とそれぞれの違いについて学ぶ 耳型採型の方法を学ぶ	「イヤモールドの種類と特性」 各種イヤモールドの種類と性質、用途について説明できる。 「耳型採型の方法と実際」 耳型採型の方法と注意点について説明できる。	福本和華子
8	後期	「各部の変更と音響特性の変化」 音質調整以外の周波数レスポンス調整の方法とその効果について学ぶ	「イヤホン、イヤモールド、ダンパーと周波数レスポンスの変化」 代表的イヤホンと周波数レスポンスの特性について説明できる。 イヤモールドの形状の違い、ベントと音響特性について説明できる。 音響ダンパーの働きについて説明できる。	福本和華子
9	後期	「補聴器フィッティング」 基本的な補聴器フィッティングの方法を学ぶ	「補聴器フィッティングの方法論」 規定選択法と比較選択法を説明できる。 代表的なフィッティングルールの概要を説明できる。	福本和華子
10	後期	「フィッティングの実際 1」 情報収集から補聴器の選択、調整、その後の対応の方法を学ぶ	「成人の補聴器フィッティング過程と装用指導」 補聴器フィッティング過程の概要について説明できる。 調整装置の調整法と注意点について説明できる。 装用段階と装用指導について説明できる。	福本和華子
11	後期	「フィッティングの実際 2」 小児に対する補聴器フィッティングの特殊性と実際の方法、注意	「小児の補聴器フィッティング」 小児における補聴器フィッティング過程の概略と注意すべき点について説明できる。	福本和華子

		点、指導について学ぶ		
12	後期	「デジタル補聴器の調整」 デジタル補聴器の調整を知る	「フィッティングソフトウェアの操作」 ソフトウェア上での操作ができる。	福本和華子
13	後期	「補聴器適合評価」 補聴器適合検査の指針(2010)に 含まれる評価法の理論と方法を 学ぶ	「補聴器適合検査の指針(2010)の理解」 補聴器適合検査の種類を挙げられる。 各評価法の実施法を説明できる。 各評価法の評価基準を述べられる。	福本和華子
14	後期	「補聴器装用の実際」 補聴器を使用する上で必要な補 聴器の操作と取り扱い方、装用法 について学ぶ 不具合がある場合の具体的な対 応について学ぶ	「使用上の注意と工夫、トラブル対応」 補聴器装用の工夫と注意点を尋ねられた場 合に答えられる。 補聴器の不具合の原因を推測できる。 装用者の訴えに応じた再調整ができる。	福本和華子
15	後期	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科・1学年
科目名	人工内耳
担当者	福本和華子
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 言語聴覚療法臨床マニュアル

授業概要と目的
人工内耳の原理、特性、適応判定、マッピング、リハビリテーション等について理解する。 なお、言語聴覚士として、病院等で臨床経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「人工内耳の構造と機能 1」 人工内耳の基本的構造と機能を学ぶ	「各部分の名称と機能について」 体内部分各部の名称と機能を説明できる。 体外部分各部の名称と機能を説明できる。	福本和華子
2	後期	「人工内耳の構造と機能 2」 刺激モードの違いとテレメトリー機能について学ぶ 「コード化法について」 各社のコード化法の原理と違いを知る	「刺激モードとテレメトリー機能」 単極刺激と双極刺激、コモングラウンドの違いについて説明できる。 テレメトリー機能の種類を挙げ、その機能について説明できる。 「各種コード化法の違いと特徴」 基本的なコード化法の原理と特徴的なコード化法について説明できる。	福本和華子
3	後期	「人工内耳適応基準」 成人と小児の人工内耳適用基準を学ぶ	「成人人工内耳適応基準(2017)」 「小児人工内耳適応基準(2014)」 成人および小児の人工内耳適用基準の概要が説明できる。	福本和華子
4	後期	「適応判定と手術」 適用判定のための検査と判定方法を学ぶ 手術法の概要を知る 手術施設、手術の費用、手術前後のスケジュールを知る	「人工内耳適応判定の実際」 適応判定に必要な検査とその他の検査の種類と得られる情報について説明できる。 手術法と解剖学的な注意点、術後の装置の状態について説明できる 手術施設の条件と現状を説明できる。 一般的な手術前後のスケジュール、費用に	福本和華子

			ついて説明できる。	
5	後期	「マッピングの基礎」 マッピングを行うために必要な知識を学ぶ	「マッピングを理解する」 T/C レベルの意味と電流量の制御、各種パラメータの内容と効果、T/C レベルと聞こえとの関係について説明できる。	福本和華子
6	後期	「マッピングの実際」 実際のマッピング手順を知る	「成人の音入れセッションの概要」 音入れのセッション各段階の実施、操作方法について説明できる。 「再マッピングの方法と調整法」 再マッピングにおける作業と聞こえの調整法について説明できる。	福本和華子
7	後期	「小児のマッピング」 小児に用いられる各種マッピング法を学ぶ 「リハビリテーション」 人工内耳のリハビリテーションの内容と方法を学ぶ	「小児の状況に合わせたマッピング法」 小児の発達の状況に合わせたマッピングの方法の概要を説明できる。 「成人と小児のリハビリテーション」 成人の評価、訓練について説明できる。 補助機器等の種類と用途を説明できる。 小児の訓練と補聴器との違いを説明できる。	福本和華子
8	後期	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	福本和華子
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	言語聴覚科 1年	
科目名	臨床実習 I	
担当者	実習指導者・西脇 克浩	
単位数（時間数）	1単位（40時間）	
学習方法	見学実習	
教科書・参考書	教科書	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>臨床現場で規定以上の経験年数を持つ言語聴覚士の指導の下、病院の言語聴覚士の役割や業務を学ぶ 患者様の症状を実際に観察する</p> <p>授業目的</p> <p>実務経験5年以上の臨床実習指導者の指導・監督のもとに言語聴覚士の役割や業務を知る。机上の知識と実際の症状を一致させ知識を定着させる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
5日間	後期	<p>「見学実習」</p> <p>医療機関や施設の社会的役割を知り、言語聴覚士の果たす役割について学ぶ</p> <p>チームアプローチの重要性を理解し、専門職として医師や関連スタッフとの連携、協調性について理解する</p> <p>言語聴覚療法やその周辺業務を見学し、言語聴覚障害・言語聴覚療法の全体像を理解する</p>	<p>医療機関や施設の社会的役割を説明できる</p> <p>言語聴覚士の職務を説明できる</p> <p>チームアプローチの重要性を理解したうえで、指導者の関連スタッフとのかかわり方を習得し、言語聴覚士の実習生として実習を行うことができる</p> <p>言語聴覚療法の全体像を理解し、説明することができる</p> <p>言語聴覚障害の主要な症状を説明できる</p>	実習指導者 西脇 克浩
成績評価方法		指導者からの評価表を参考にし、出席・デイリーノート・実習態度などで評価する		
準備学習など		各科目の復習をしておくこと		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科・1年次
科目名	リハビリテーション運動学
担当者	櫻井泰弘
単位数（時間数）	1単位（15時間）
学習方法	講義、実技
教科書・参考書	資料を毎回配布

授業概要と目的	
<p>授業概要：人間の身体動作について、解剖学、生理学の知識を踏まえてリハビリテーションに必要な運動学を学習する。あわせて「自分の身体」を通して理解することの大切さを考えていく。</p> <p>目的：臨床現場において、他のリハ職の治療方針や治療方法が理解できるよう最低限の「身体動作に関する基本知識」の習得を目指し、また基本動作について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を行う</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「リハ職に必須となる身体知識」 ・PT・OTに共通して求められる 身体の基本知識を共有し、理解する。	「身体運動の基礎」 ・身体運動の面と軸 ・関節の動き について、基礎知識を説明できる。	櫻井泰弘
2	後期	「運動器の構造と機能①」 ・関節の基本構造と機能を理解する。	「関節の基礎」 リハ職に最低限必要な各関節の動きについて学習し、「関節の基礎」について説明できる。	櫻井泰弘
3	後期	「運動器の構造と機能②」 ・骨格筋の基本構造と機能を理解する。	「骨格筋の基礎」 ・骨格筋の神経構造 ・筋紡錘、腱紡錘の構造と機能 ・筋収縮の様態 について、基礎知識を説明できる。	櫻井泰弘
4	後期	「姿勢の診方」 ・姿勢の特徴 ・姿勢戦略 について理解する。	「人の姿勢の特徴」 ・重心 ・左右方向、前後方向の重心線 ・安定した姿勢、不安定な姿勢の要因 ・各関節の姿勢戦略	櫻井泰弘

			について理解し、説明できる。	
5	後期	「基本的動作①」 ・寝返り、起き上がり動作の仕組みについて理解する。	「寝返り、起き上がり動作の特徴」 ・各関節の動き ・筋活動 ・重心の変化 について理解し、説明できる。	櫻井泰弘
6	後期	「基本的動作②」 ・立ち上がり、着座動作について理解する。	「立ち上がり、着座動作の特徴」 ・各関節の動き ・筋活動 ・重心の変化 について理解し、説明できる。	櫻井泰弘
7	後期	「基本的動作③」 ・歩行動作について理解する。	「歩行動作の特徴」 ・歩行周期 ・歩行時の重心移動 ・歩行時の関節角度 ・歩行時の筋活動 について理解し、説明できる。	櫻井泰弘
8	後期	「まとめと試験」 リハ職に共通して求められる身体の基本知識及び運動動作の基本について、知識を整理し、理解する。	「まとめと試験」 これまで学習した身体運動の基礎について、知識を整理し、試験を通して定着度の確認を行い、身体動作について説明できる。	櫻井泰弘
成績評価方法		筆記試験（100%）		
準備学習など		特になし		